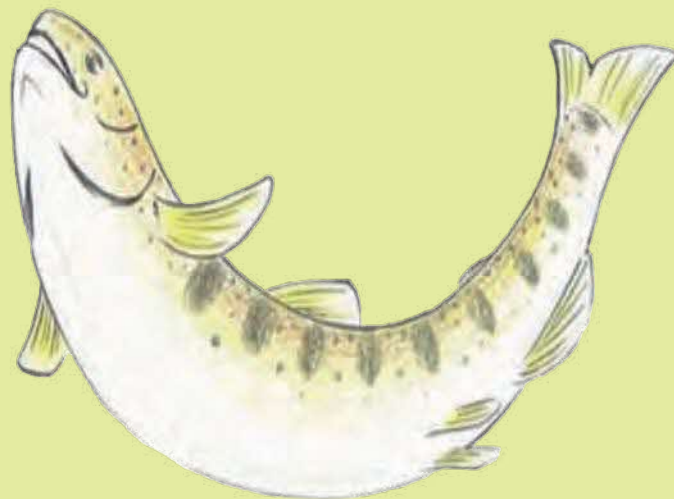


令和7年度
サクラマス・プロジェクト

キャリア教育 報告集



「アントレプレナーシップ教育」



島根県立吉賀高等学校

目 次

巻頭言	1
吉賀高校のアントレプレナーシップ(アントレ)教育とは	2～3
3年生 アントレを振り返って	4～9
アントレ校内発表会	10～12
アントレ成果発表会	13～17
生徒スライド	18～67
教員スライド	68～73
1年間のアントレを振り返って	74～75
吉賀高校アントレ 講評	76～78

関西国際大学 経営学部 教授 樋田 大二郎

桜美林大学 グローバル・コミュニケーション学群

准教授 山崎 慎一

島根大学 大学教育センター 講師 吉崎 聡一

巻頭言：「自らが価値となるコネクション」を築く

校長 河井俊彦

山々の深い緑を背に、高津川の清流が刻むリズムとともに時が流れるここ吉賀町。今年度も本校の生徒たちは、地域という広大な教室へと飛び出し、瑞々しい感性で未来への一步を刻みました。この「キャリア教育報告集」には、生徒一人ひとりが地域の方々と共に悩み、考え、そして掴み取った確かな成長の軌跡が凝縮されています。

さて、今年度の報告にあたり、私はあえて「コネ」という言葉をキーワードに掲げたいと思います。一般的に「コネ」という言葉は、時として「実力以外の力で物事が有利に運ぶ」といった、どこか不公平でネガティブなニュアンスで捉えられがちです。しかし、社会やビジネスの最前線における真の「コネ（ご縁）」とは、「信頼の積み重ねが生んだ最強の資産」であり、戦略的に活用されるべき「リレーションシップ（良好な関係性）」「人脈」そのものであると、私は考えます。

まさに本校の強みは、教室の壁を超えた「コネ（繋がり）」にあります。吉賀町というフィールドで多種多様な大人たちと出会い、そこで生徒たちは多くのことを学びました。本当の意味での「良いご縁」とは、単に相手に頼り、利を得ることではありません。それは「自分も相手に価値を提供できる対等な関係」になることです。相手にとって「なくてはならない存在」になること。相手が困っているときに自分のスキルや知識・アイデアで貢献すること。そうした「ギブ（与える）の精神」があってこそ、その「繋がり」は一生涯の宝へと変わります。

そして、「吉賀高校のあの生徒なら一生懸命に取り組んでくれる」「あの子なら信頼できる」そう思わせる関係性を築くことができているならば、それは生徒たちの立派な能力です。「コネ」とは、ただ「誰かを知っている」ことではありません。「誰かが自分を信じてくれている」という状態を指すのです。現代社会は情報の波に溢れています。しかしながら、本当に価値のある情報や人生を左右するような決定的なチャンスは、いまだに「信頼し合える人間関係」のネットワークの中を流れています。

そのような状況下で、「アントレプレナーシップ教育（探究的な学習の時間）」において、地域の方にインタビューをし、時には厳しいアドバイスをいただきながらもプロジェクトに挑戦する経験をする。それは、社会に出た時に「助けてください」と言える相手、あるいは「あなたと一緒に仕事がしたい」と言ってくれる相手を、一人、また一人と増やしていくプロセスに他なりません。

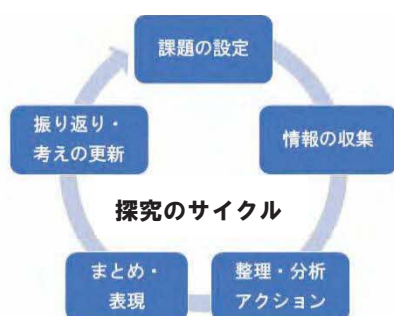
また今年度、生徒たちの熱意に触発され、大人である教職員も、地域とともに歩む「探究の道」へ一步を踏み出しました。「防災」をテーマに掲げ、地域と高校が深く連携する可能性を探っています。いつ起こるかかわからない災害から、いかにして吉賀町を守り抜くか。教職員自らが地域の方々との対話を重ね、学校が地域のハブとしてどう機能すべきかを模索する探究に取り組み始めています。この地域のために行動する私たち大人の姿勢は、生徒たちが将来、自ら課題を見つけ、地域の人々と協力し、信頼関係を築きながら、より良い地域社会を築いていく上で、必ず良い影響を与えるものと確信しています（P70～75 掲載）。

生徒の皆さん、吉賀高校で地域とともに育んだ「繋がり」は、かけがえのない宝物であると同時に、決して完成されたものではありません。地域と誠実に向き合い、対話を重ね、自らの価値を高めの中で育んできた「信頼」という名の絆は、皆さんの学びの原動力となり、未来を豊かに創造するかけがえのない財産となります。これからも常に知的好奇心を忘れず、社会の変化にしなやかに対応しながら、自らの手で未来を切り拓き、挑戦し続ける人であってほしいと思います。

結びに、生徒たちの挑戦を温かく見守り、教職員の探究にもご理解とご協力をくださった地域の皆様、ならびに大学関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。吉賀高校はこれからも、生徒・教職員・地域が互いに価値を高め合い、強固な「ご縁」を結び続ける拠点であり続けたいと強く願っています。そして、この一冊に凝縮された生徒たちの成長が、次なる新しい「繋がり」を呼ぶ種火となることを期待し、巻頭言といたします。

吉賀高校のアントレプレナーシップ教育（アントレ）とは

吉賀高校では総合的な探究の時間を「アントレプレナーシップ教育（通称アントレ）」と称しプロジェクト型探究学習を行っています。アントレプレナーシップとは「起業家精神」を意味しますが、この変化の大きい不確かな時代に、仕事が無いなら自ら創るマインドとスキルを身につけるための授業と位置づけ、「未来を創る力」を育成する探究学習を展開しています。この授業の中で、自分たちのやりたいこと（Will）と、出来ること（Can）、そして地域社会における需要（Need）を掛け合わせて、ありたい未来を実現するために仮説を立て、それを検証するための『プロジェクト』を考え、地域をフィールドとして実践に移し、探究のサイクルを回していきます。



1年生はまず探究の型を習得することと、協働する力を身につけることを重要視し、興味関心に応じて6つのグループに分かれて探究活動を進めてきました。地域を知り社会を知る意味で、RESASを用いて吉賀町について調べたり、発表の仕方を島根大学吉崎聡一先生から学んだりしました。テーマを設定後は各グループがフィールドワークに度々出かけて話を聞くなど、視野を広げました。地域をフィールドとして探究活動を行う本校としては欠かせないパートナー

である各地域の公民館の皆さんや町内事業所の皆さん、さらには小中学校に協力を仰ぎ、地域活動に参画させてもらいながら、自分たちのプロジェクトを考え、実践して이었습니다。

また、桜美林大学、法政大学との高大協働研究を1年生対象に行い、大学生と交流しながら探究学習を深めてきました。8月下旬に吉賀町に大学生が、10月には東京に高校生が訪問し、それぞれの地でフィールドワークを行いました。今年度はプロジェクトを遂行するというよりも「高校生のやりたい」という気持ちを引き出せるよう大学生に関わってもらいました。



多様な視点からの意見やアドバイスをいただき、壁打ちしてもらいながら、沢山の学びを得ることができました。また、今年度も本校卒業生が大学生として参加してくれましたが、高校生にとってロールモデルとなるサクラマスの姿を間近で見ることができました。

2年生は、自身の進路を見据えながら改めて課題と向き合い、テーマを設定したうえで、個人またはグループに分かれて試行錯誤を重ね、アントレプレナーシップ活動に取り組んできました。今年度も、NPO法人カタリバ主催の「学校横断型探究プロジェクト」に参加し、他県の小規模校と年3回のオンライン交流を行いました。

県外の高校生との意見交換を通して、それぞれの探究内容を共有することができ、多くの刺激を受ける機会となりました。また今年度はしまね未来共創チャレンジ（みらチャレ）にも参加する生徒がいたり、町外の方と一緒に活動する生徒がいたり、活動が町内に留まらず、町外さらには県外にまで広がり、主体的かつ積極的に活動する姿が随所に見られ、活動内容も多岐にわたりました。



3年生は自分の将来、進路に結び付けることを意識しながら活動し、7月に最終発表会を迎えました。3年間で振り返りながら、自身の成長や後輩に伝えたい思いを自分の言葉で堂々と発表しました。2学期末には「サクラマス・とーく！」で町内の全小学校を訪問し、自らの人生や学びについて語り、小学生と交流しました。相手に寄り添い、言葉を選びながら経験を語る姿は、学びの積み重ねを感じさせるものでした。小学生に対して、根気強く相手の言葉を待つ姿など普段は見ることができない姿を見ることができました。



本校のアントレプレナーシップ教育は、地域の皆様のご理解とご協力によって支えられています。各プロジェクトでは、地域の現状を丁寧に聞き取り、課題を踏まえた企画を立案し、多くの方々にご協力をいただきながら実践へとつなげてきました。実際に地域の現場に足を運び、机上の理論にとどまらない実践的な学びを展開できているのも、ご多忙の中で時間を割き、高校生に貴重な機会と場を提供してくださっている地域の皆様のお力添えによるものです。

2月の成果発表会は、午前は6ブースに分かれ、1、2年生が全員1人で発表し、午後は各ブースから選出された代表生徒6名が柿木ふれあい会館にて発表を行いました。とりわけ、代表者6名は、午前の発表からさらに変更を加えた内容で午後から発表をしており、原稿を読むのではなく、自分の言葉で自分の活動や想いを語ることができており、多くの聴衆の心をつかみました。この1年間、本当に多くの方々に支えられて行ってきたアントレだと、どの生徒も感謝を述べる姿が印象的でした。

発表会には中学生を始め地域の方々にも多数ご参加いただきました。当日お越しいただいた大学の先生方には、代表生徒の発表をじっくりと聞いて励ましのお言葉をいただきましたこと感謝申し上げます。また日頃より本校のアントレにご協力いただいている地域の方々にも改めて感謝申し上げます。

今年度の高校生たちのプロジェクトの内容、アントレを通じての学びや成長などをまとめたスライドをこの報告集には掲載しております。個人ではなくプロジェクト毎の報告を16枚という枚数制限の中でまとめたものになりますが、ご覧いただければと思います。そして、吉高のアントレの発展のため、これからもご助言・ご協力をお願いいたします。



3年生 アントレを振り返って

【吉賀町をフィールドとし、地域の人と交流する】

吉賀町をフィールドワークとしてアントレをすることで、改めて吉賀町の地域の魅力に気付かされたり、地域の活性化につながったりすると思いました。アントレを進めていくうえで吉賀町の色々なところにフィールドワークに行くと、ほとんどの地域の方に「吉高生や若い子のすることに協力したい」と言われ、改めて吉賀町の皆さんの温かさを感じることができました。そして私たちが地域の方とアントレをすることで、地域の方が想像しないような新たなアイデアが生まれたことがあったので、地域の活性化につながると感じました。これから吉高のアントレで吉賀町がもっと活性化したらいいなと思いました。



地域の方と交流を深めることで自分が今この地域に存在しているのだなと感ずることができ、この地域に貢献したいと思えるようになりました。その結果、アントレの考え方が地域の環境の中で年々変わっていったと思います。とてもいい経験でした。ちなみに私はごみ捨てについてをアントレの題材にし、地域の方や学生に対して訴えてきましたが、自分の行動力のなさが原因でなかなかできず、実際にはもっとできたのにと感じています。今後、吉賀町を離れてもここでの経験を糧にして、将来に向かって進んで行きたいと思っています。また自分の行動力のなさで後悔がないようにしたいです。



吉賀町はアントレ活動を行う上で、これ以上ない最高の環境です。地域の方々には活動への理解が非常に深く、惜しみない協力を注いでくださいます。私自身、地域の皆様の支えがなければ、この活動を完成形まで導くことは到底できなかったと痛感しています。また吉賀高校での過去のアントレを引き継ぐことが可能な点も魅力的です。先輩方が積み上げた貴重なノウハウを基盤とし、注力すべきポイントを明確にした状態でスタートを切れることは、他にはない圧倒的なアドバンテージになるはずです。

【アントレを通して、資質・能力を伸ばす】

アントレで身につけた力はスライドにまとめる力です。1年生で初めて、発表をするためのスラ

イドを作るときは何かからやっていかまったく分からず、文字だけをスライドに書いていました。これではだめだと思い、寮の先輩や先生に聞いて、どうやったら伝わりやすいものが作れるかをどんどん改善していきました。何回もスライドを作っていくうちに、発表の後に「スライドが見やすかった」などのコメントがもらえるようになり、本当に良かったと思いました。将来、仕事でプレゼンをすることで、みんなに伝える機会があると思うので、上手く活かしたいと思いました。

アントレを通して一番身についたと思うことは臨機応変な対応ができるようになったことです。実際に地域に出て自分たちが主となって活動するときに、想定していたことがそのまま思い通りに



なったことはあまりありませんでした。自分たちだけで活動するとなるとすべてがうまくいくわけではありませんでした。しかし、そんなときに落ち着いて、どうすれば活動を中止せずに続けることができるかをしっかりと考えることができました。周りの環境をきちんと把握し、想定外の事が起きてもその場で対応することができるようになりました。臨機応変な対応ができるようになった理由として周りを観察する力も身についたからではないかと思っています。

アントレプレナーシップ教育を通して、私は人と話す力や自分から行動する力が身につきました。自分から何かアクションを起こすことや自分から意見を言うことがとても苦手でアントレも嫌いでした。ですが、活動していくうちに自分でなにかしないといけないと思うようになり、だんだん意見が言えるようになったり、自分からアクションを起こしに行ったりするなどをして、苦手を乗り越えて来ました。自分が将来、社会に出て、アントレでつけた力を使う場面が多々あると思うので、しっかり使っていきたいです。アントレを通してたくさんの人と関わり、アントレの活動をたくさん支えてもらいました。

アントレによって身につけた力は、メタ認知能力です。メタ認知能力が培われたのは、発表会のスライドを作る際だったと思います。相手にわかりやすいように発表するために自分の活動を俯瞰的に眺める必要があったので、そこで鍛えられたかなと思います。しかし、地域フィールドワークに出てお話を伺う際や、アントレの発表会に向けてスライドを作る際など、自分の活動を一旦振り返るたびに、先の見えて無



さや行動力のなさを感じました。つまり、メタ認知能力が身についただけでは何も生まれないと分かったので、自分の改善すべき点に向けて、行動できるような力も付けられたら、なお良かったです。

アントレの活動での高齢者の方たちとの関わりを通してこれから将来に必要なコミュニケーション能力を身につけることができました。高齢者の方と話すことは難しいと思っていましたが、スマホ講座の回数を重ねたり、プラスαでなにかしたりするなどで仲良くなることができ、苦手意識を克服できたと思います。また、高齢者の方の目線でいろいろなことを考えて行動していく中で、より信頼されるような人になれたと思います。自分たちが分かる言葉は、高齢者の方には分からなかったり知らなかったりするので、そういった言葉を高齢者の方でも分かるような言葉を選んで使うことで、相手の立場に立って考える力が身についたと思います。



人を引き付けるということができるようになりました。3年間で発表、スライドの楽しさや難しさが分かりました。3年最後の発表で中学生も来てくれる事になり、前日に中学生に向けて自分が発表する内容を軽く説明する時間がありました。その時、笑顔と楽しそうな雰囲気を出して説明しました。中学生に難しい説明をしたり、堅苦しく説明したりするよりも楽しそう、楽そうと思ってもらうことが大切だと思ったからです。同じ地域の人でも、年齢が違えば、興味を持つところ、感じ方はみんな違うと思うから、人によって話し方やオーラみたいなのを変えることが大切だと3年間で気が付きました。結果的に最後の発表では、中学生が20人近く来てくれたのでうれしかったです。話し方、伝え方、3年間で多くのスキルを身につけたと思います。



私はアントレを通して、「振り返ること」の大切さを学びました。私の班は月に1回、高齢者の方を対象としたスマホ相談会を計10回ほど実施しました。最初は、どのような内容にすれば参加者の方に満足してもらえるのか分からず、不安もありました。しかし、毎回の活動後に良かった点や改善点を話し合い、次回の企画に生かすようにしました。企画を立てて実践し、評価し、改善するというPDCAサイクルを意識することで、回を重ねるごとに説明の仕方や資料の内容も工夫できるようになりました。その結果、利用者の方から「分かりやすかった」

「また参加したい」といった声をいただき、公民館の方からも好評を得ることができました。自分たち自身も活動の手応えを感じ、大きな達成感を得ることができました。これから社会に出てさまざまな経験をする中でも、アントレで学んだ「振り返り」を大切に、次の成長につなげていきたいです。

【アントレを進路、将来につなぐ】

私は2年のときから将来に向けたテーマで活動をしていました。実際に仕事をしている専門家にどういう接し方をしたらいいのかなどを聞きながら活動をしていくことで、専門的な用語などの知識を得ることができました。進路とアントレをつなげることで、どういう仕事なのかも知ることができてかつ自分の好きなこともできて、とても楽しくアントレをすることができました。3年間のアントレの活動を通して得たこと成長したことなどを活かして今後の専門学校での4年間につなげていきたいと思うし、そこから就職したあとにつなげられるという自信もついたので、アントレを進路につなげることはとてもいいことだったなと思いました。



アントレプレナーシップ教育を受けるうえで、自分の進路を見据えたプロジェクトに取り組みました。私は国際関係の学部を目指していたため、多文化共生をテーマに活動しました。活動内容は、子ども食堂に外国の料理を提供することでした。プロジェクトに関わる方たちと話す中で、新しい価値観を得ることができ、効果的に進めることができました。活動は一度きりでしたが、それまでのプロセスを大切にできたと考えています。プロジェクトの立案から子ども食堂への案の提出、会議の出席など、様々な工程を知ることができました。アントレは起業家精神を養うといわれていますが、それだけでなく、プロジェクトが行われるまでの過程を知る機会でもあると思っています。3年間の活動は私にとって有意義になったのはもちろん、協力していただいた方々への感謝もしています。

私は医療に興味がありました。そして吉賀町には高齢者の割合が高いので高齢者に焦点を当てて「笑顔と健康」というテーマで活動してきました。将来は看護師になりたいと思っています。吉賀町では中山間地域での医療が行われているため、コミュニケーション力などが問われます。将来、中山間地域や離島、都市部など、さまざまな場所で働くことになっても、高齢者の方とのコミュニケーション力は必須だと思いました。なので高校生のうちに、高齢者を笑顔にしながら、高齢者との関わり学ぶことを意識して



活動してきました。実際に、活動をする中で、高齢者の方と同じ目線で話をしたり、大きな声で話したりすることなどを学ぶことができました。

自分の将来やりたいことを基軸にしたアントレの内容を私は貫いてきました。最初はなんとなく経済のこと、特に資産運用について、後々の将来の学びにつながる内容をしたと考えました。その結果、金融リテラシーを広める活動になりました。活動自体が上手くいくことは少なく、実際に地域の金融リテラシーをあげることができたかは定かではありません。ただ実際に講義用のスライドを作ったり、日々金融の勉強をしたりしてきたことは将来に対する大きな学びであり、実践的な知識になりました。そのことから私はアントレが地域に大きな影響を与えているかどうかは関係なく、一番自分にとって成長したいことを推し進める方が実りのある学習になると思います。



アントレの時間で地域の方と関わることで、学校では習わないようなことをたくさん知りました。その中でも、一番効果的なアンケートの作り方や実施方法、結果の見方、ユーザーのニーズにあった宣伝方法を使用することなど、今まで3年間やってきたアントレは、まだまだ改善できることがたくさんあると感じました。このアントレでの経験を活かしつつ、さらにレベルアップして地域や社会に貢献するために、大学で情報学科を選択しました。情報技術を学ぶことで、広く深く地域の魅力が宣伝できるようになったり、よりユーザーの悩みを解決しやすくなったりするのではないかと思います。

料理人を目指した理由は、食べることが好きだったからという単純なものだけではなく、小さい頃に、家族が忙しい中でも、食卓に料理が並ぶと自然と会話が増えていって、みんなの表情が明るくなるのを見てみて、「料理には人を笑顔にする力がある」と感じたからです。また、自分で初



めて作った料理を家族が「おいしい」と言ってくれたとき、大きな達成感と喜びを味わいました。その経験から、料理は単なる作業ではなく、人の心を温かくする大切な仕事だと思うようになりました。将来は、食べた人が幸せな気持ちになれる料理を作り、多くの人に笑顔届けられる料理人になりたいと考えています。そういうことを考えながらアントレを進めることができました。



2025年度

アントレ校内発表会

2025.12.11 (Thu)

＠島根県立吉賀高等学校

本日のタイムテーブル

時間	内容
13:45 - 13:55	オープニング
13:55 - 14:50	グループセッション①
14:50 - 15:00	休憩
15:00 - 15:55	グループセッション②
15:55 - 16:10	学びのまとめワーク
16:10 - 16:25	講評・クロージング

グループセッションの進め方

発表
5分～10分

1

質疑応答
3分～5分

2

ふせし渡し
1分

3

各ブース
4or5PT

2セッション

グループセッションスケジュール					
セ ッ シ ョ ン ①	時間	1年1組	2年1組	2年2組	多目的教室
	13:55 - 14:06	清水、成田、田中真	2年 小藤、田原、島山	2年 佐藤	2年 河内、宮本
	14:06 - 14:17	1年 岩河内	2年 新田知、山崎	2年 西田、松本鈴、三浦吉	2年 霧澤
	14:17 - 14:28	1年 藤田、堀田、三浦崇	1年 内田、上田、水津、寺井	1年 上野、川上、齋藤聡	1年 岡田、下野、羽野、松本美
	14:28 - 14:39	2年 江谷	2年 井上	2年 橋	2年 小倉、永田
セ ッ シ ョ ン ②	時間	1年1組	2年1組	2年2組	多目的教室
	14:39 - 14:50	2年 根占	2年 岡本	2年 本田	2年 須藤
	15:00 - 15:11	2年 清水、成田、田中真	2年 小藤、田原、島山	2年 佐藤	2年 河内、宮本
	15:11 - 15:22	2年 西田、松本鈴、三浦吉	2年 新田知、山崎	2年 栗原	2年 新田隆、富安
	15:22 - 15:33	1年 岡田、下野、羽野、松本美	1年 上野、川上、齋藤聡	1年 原田、堀田、三浦崇	1年 齋藤冬、中野
	時間	1年1組	2年1組	2年2組	多目的教室
	15:33 - 15:44	2年 本田	2年 江谷	2年 蓮見	2年 井上
	15:44 - 15:55	2年 浅尾	2年 小倉、永田	2年 岡本	2年 根占

評価ルーブリック				
観点	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
ストーリー性	活動の流れを時系列で説明している。	活動の流れに加え、要所で「なぜその行動を選んだか」を自分たちの言葉で説明している。	Will/Can/Needや気づきと行動の変化をつなげて話し、聞き手が筋道を追いやすい。	目的の仮説と行動の結果とふりかえりが一つの物語として伝わり、プロジェクトの意義や成長がイメージできる。
探究力	テーマや課題を自分たちの言葉で述べ、身近な情報を中心に集めている。	複数の情報源（インタビュー、ネット・文献など）から情報を集め、仮説や問いを立てている。	集めた情報を比較・整理し、仮説のもとで行動し、その結果をふりかえろうとしている。Will/Can/Need（他者のニーズ）についても説明している。	ニーズの確かめ方や検証方法に工夫があり、結果から新しい問いや次の一手を考えている。Will/Can/Needのバランスも意識している。
フューチャー	必要な情報がスライドにまとまっている。	1枚1メッセージを意識し、文字サイズや色使いなど基本的な視覚的に伝わりやすさに配慮している。	図・写真・グラフなどを使い、重要なポイントが視覚的に伝わるようになっている。	全体の構成やデザインが整理され、スライドを見るだけでなくプロジェクトの流れと魅力が伝わる。
表現力	メモやスライドを見ながらも、聞き手に向けて一生懸命伝えようとしている。	聞き取りやすい声の大きさで話さず、ときどきアイコンタクトがある。	アイコンタクトやジェスチャーを取り入れ、チーム全員が役割を付けて発表している。	聞き手の反応を見ながら話し方を調整し、言葉全体をきき込めながら自信をもって話している。

アントレは未来を創る

※ これまで、皆さんは自分たちのやりたいこと（Will）と、出来ること（Can）、そして地域社会の需要（Needs）を掛け合わせて、ありたい未来を実現するために仮説を立て、それを検証するための『プロジェクト』を考え、実践に移してきました。

※ 今日は、大きな探究のサイクルでいうと【まとめ・表現】に当たります！しっかりと聴衆に向けて、プロジェクトについて語ってください。そして、2月の発表に向けて、深めたり改善したりすべき点を明らかにしていきましょう。

※ そして、お互いのプロジェクトに刺激を受けながら、よりよい未来を一緒に創っていくために意見を出し合ひましょう！

発表プロジェクト一覧					
学年・チーム	メンバー	テーマorプロジェクト名	学年・チーム	メンバー	テーマorプロジェクト名
1年-1	岩河内	犬（健康+人間） ＝犬と人間の健康フード	2年-7	小倉、永田	アニメ
1年-2	内田、上田、水津、寺井	みんなで楽しむ！ 魔校イベント！！	2年-8	河内、宮本	健康
1年-3	上野、川上、齋藤聡	ひらめきサポート隊	2年-9	西田、松本鈴、三浦吉	子ども
1年-4	岡田、下野、羽野、松本美	高齢者を手伝い隊	2年-10	新田隆、富安	よしかの里
1年-5	齋藤冬、中野	スポーツイベントコーディネーター	2年-11	江谷	犬
1年-6	原田、福田、三浦崇	おしゃべりチャンネル	2年-12	井上	吉賀高校PR
2年-1	小藤、田原、島山	吉賀町ホームページ 改良プロジェクト	2年-13	岡本	石見神楽の魅力や吉賀町の子どもたちに伝えたい
2年-2	佐藤	吉賀を活性化（音楽）	2年-14	浅尾	WEB上で校内見学
2年-3	栗原	図書館の活性化	2年-15	橋	よしか×かるた
2年-4	清水、成田、田中真	食×健康	2年-16	本田	地域の輪づくり
2年-5	石田、田中優	スポーツで子どもと関わる	2年-17	根占	特産品を使った商品開発
2年-6	新田知、山崎	吉賀高校PR TikTok	2年-18	蓮見	医療福祉×アート
			2年-19	須藤	スキー×吉賀町

評価について

今日の発表は、次の3観点で評価していきます！
（3つの観点のレベルは、次ページのルーブリックを確認してね）

1 探究の内容

2 スライドの工夫

3 発表の仕方

ふせんの使い方

上の3観点で、良かったこと（赤）・気づいたことや質問（青）などを書いて、発表後に渡してください。

【ブルー/グリーン】

改善点
疑問点

【イエロー/ピンク】

良かった点

アントレは未来を創る、、、

TO BE CONTINUED...

- 10 -

アントレ校内発表会を通して（教職員・来場者の感想）

■発表内容・テーマ・発表形式など

- ・課題意識が伝わる、学校や地域に密着した内容で良かった。
- ・いろいろな視点から地域や吉賀高校を発信させようという生徒たちの想いが伺えて感心しました。
- ・「自分たちのやりたいこと」だけでなく、フィールドワークの中から感じた「地域の課題」にもしっかりと目を向けて取り組めている活動が多かったように感じます。アントレ本来の目的を生徒たちがよく理解して取り組んでいた成果だと思います。
- ・他の会場との時間のズレが生じると、別の教室に移動した際に最初から聞く事ができないので、全体で開始のタイミングはそろえてもらえるとよいと思います。移動時間の為、発表間に1～2分程度あると嬉しいです。
- ・皆さん元気よく発表ができていました。難しいかもしれませんが、パソコンやスライドばかり見ながら発表するのではなく、会場の人に向かって、会場の人を見ながら発表ができるともっと説得力のある発表になったかと思います。素敵な発表ばかりでした。もっと自信をもって相手に伝えようとする気持ちを出してもらえるともっと良くなると思います。

■生徒の様子など

- ・発表後の質問や感想などを聞くとどの生徒も和やかながら真剣に他者の発表を聞いており、どの生徒も自分ごとで考える姿勢が見られました。
- ・皆さんとても真剣に他の人の発表を聞いていて、付箋もたくさん書いていたようで、吉賀高校の生徒の皆さんのまじめな姿が見られてよかったです。
- ・自分のプロジェクトが楽しくてたまらない生徒もみられましたが、この発表がゴールにならないように伴走を続けていけたらと思います。

■全体の感想・今後に向けて

- ・毎年色々な内容がありますが、先輩が行ったアントレの検証やそのアントレを引き継いで進めていくことをする生徒さんがいてもいいのかな？と思います。校内の花壇や柿木のアスレチックなど…継続できるものは続けていければ吉賀高校と地域はもっと繋がっていいと思います。
- ・自分が見て回った発表は、どれも着眼点は良いなと感じました。実践していく中で、新しい気づきがあり、当初の予定からテーマが変更になることも融通が利いていいと思います。ここからは最終発表に向けてゴールを明確にしていき、ブレずにやっていってほしいと思います。
- ・とても素敵な発表ばかりで、高校生が町について真剣に考えてなにかやりたいという気持ちを一般住民も小中学生にも知って欲しいと思いました。知る機会がすでにあるかもしれないが、もっとPRしてもよいと思います。



令和7年度

アントレプレナーシップ 成果発表会

日にち

2026

2月6日(金)

会場・時間

吉賀高校(午前)

9:00~11:15

柿木ふれあい会館(午後)

12:45~15:20

コメンテーター

関西国際大学

樋田 大二郎 教授

桜美林大学

山崎 慎一 准教授

島根大学

吉崎 聡一 講師

参加申込みは
こちらから！



お問い合わせ先：TEL 0856-78-0029 吉賀高校

イラスト/吉賀高校美術部 蓮見美々子 小倉昂汰 須藤来夢

アントレ成果発表会を通して

■生徒の感想（1年生）

- ・今まで発表をするときは、怖くて前を見たことすらなかったけど、今回の発表は前を見てみなさんとアイコンタクトを取りながら発表することができました。また、スライドがわかりやすいなどのコメントを何枚か頂いたのでスライドもうまくつくることができたと思いました。



- ・午後からの代表発表をしていた皆さんは、ほぼずっと前を見て観客を巻き込むように話していたのが印象的でした。それに比べて私は、1枚のスライドにつき1回は必ず顔を上げる意識はしていたけど、ずっとではなかったので、次の発表会のときは、皆さんみたいに堂々と落ち着いて話せるようになりたいです。

- ・自分の言葉で発表するのが長くなってしまったため、簡潔に伝えることが必要だと思いました。スライドも、箇条書きでわかりやすくしていても一言で見やすいようにすることで、よりレベルが上がるのではと感じました。



- ・2年生でやりたいアントレが先輩の発表を見て決まったので、これから少しでも計画や内容決めもやって行きたい。でも3月中に1回はスマホ教室をやって、1年生での活動を終えたい。

- ・声の大きさとスピードを意識しながら、アイコンタクトもたまに入れ、前よりも聞き取りやすい発表ができたと思います。そしてスライドも、前の発表の時には写真やイラストが少ないと言われたので、改善したくさん入れることを意識できたので良かったです。



- ・直接地域の方々に話を聞いたり、自分たちの足で現場に行ってみたりすることが大切だと思いました。これからは、計画&実行&振り返りの流れを毎回作って、次の活動に活かせるようにしていきたいです。

- ・「お仕事→推し事に。好きなことをやっていれば推してくれる人が出てきてそれで広がる。探究は深さによって評価されやすいけれど、これは違う、あれも違うでいろいろなものに手を出して行くのもいい」という講師の方の講評に納得できました。

■生徒の感想（2年生）

・代表者の発表を見て、自分の得意なことを生かしたホスピタルアートで病院の人たちを笑顔にしている、何より 20 時間かけて絵を描くのが自分にはできないことなのすごいいいと思いました。スライドもアンケート結果や、データなどがまとめられていてとても見やすかったです。



・発表をしているときに身振り手振りをいれながら、言葉が詰まることもなく発表を進めることができよかったです。一方で、自分の創りたい未来をもっと詳しくして、高校の間にどんなことをしたいかをいれたほうが良かったかなと思いました。

・多くの発表がアントレ以外の時間を見つけながら取り組んでいるように思いました。さらに自分のできることを活かしながら貢献できるのがすごくいいなと思いました。

・具体的な未来（こういうサイクルを目指している）をイラストなどでうまく使って表現していたり、仮説のサイクルやプロジェクトがなぜ変わったのか自分の中での矛盾も詳しく説明していたりと、発表の中にいろいろなことがうまくまとめられているものがあつたので、これからの参考にしていきたい。

・スライドに書いてあること以外も詳しく説明しながら発表することができました。また質疑応答の際にしっかりと受け答えすることができました。ただこれからはもっと自分が本当に伝えたいことを目立たせるようなスライドづくり・発表にしていきたいです。

・探究を進めるうえでやっぱり行動力が一番大切だと感じました。またプレゼンの時の抑揚やイントネーションで雰囲気さがすごく変わること気が付いたので、これからはそのあたりも意識しながら発表できるようにしたいです。

・多少失敗がある方が楽しく感じられるし、失敗には魅力のある失敗と魅力のない失敗があることが分かった。困ったとき、失敗したときに助けてくれる人がいる吉賀町・吉賀高校はすばらしいということを再認識することができました。



■教職員の感想

- ・個人発表で、各自がアントレを通して感じたこと、変化したことを言語化できており、それぞれの成長を感じることができました。今回、大学生が各ブースにいて、的確で今後の活動に活かせるコメントをしてくれたのがとても良かったです。



- ・全員が個人で発表する形式は、一人ひとりの探究の成果や思考の深まりを丁寧にみることができ、とても意義のある時間でした。ブース形式での実施により、発表者と聞き手の距離が近く、双方向のやり取りが自然に生まれていた点はとても良かったと感じました。
- ・スライドは全体的に見やすく工夫されており、自分の言葉で伝えようとする姿勢がとても印象的でした。一方で、発表態度については、メモや原稿の見方（視線の向け方や携帯の使用など）も含めて全体で共有できると、さらに良くなると感じました。
- ・質問に対して真剣に答えようとする姿や、他者の発表を積極的に聞こうとする態度に成長を感じました。学年間の学びのつながりも見られ、本校の探究活動の積み重ねが形になってきていると感じました。

■来場者の感想

- ・フィールドワークの行き先について教員だけでは限界があるので、前もって町の教育委員会や支援室に援助を求めると深みのあるフィールドワークになるかと思いました。
- ・1年間の成果をこの場のために頑張ってきたのではないかと思います。高校生が地域で活動していくことが吉賀町にとって良い未来を作っていくことができると良いなと思っています。
- ・地域住民の目線で見ていると、普段の高校生の活動の様子を知っているのは一部の住民なのだろうなと思っています。高校生も関わってほしいと思ってないのかなと思うと一歩引いたコミュニケーションになりがちです。関わりしろがもう少しあると嬉しいです。
- ・高校生の発表の内容について、生徒自身がしっかりと考えて実際に体験したこと、思ったことをきれいにまとめて伝えようとしている姿が非常に印象に残りました。スライド、内容の質がとても高いと思いました。



- ・吉賀町に役に立つような発表もあるので、役場の職員が聞くべきです。そして一緒に活動できたら最高です。
- ・やりたいこと、できること、地域のニーズを生徒の皆さんが地域の大人に意見を聞いて、しなやかにシフトチェンジしていく様子が分かりやすく表現されていたと思います。
ただ午前中の各ブースの移動時間1分が間に合わないこともありました。
- ・生徒さん同士で積極的に質疑応答しているのが素敵でした。当初掲げていた目標を大学生の皆さんからの意見を聞いて、自分たちが出来る形へと、修正したり、イベントを一から企画するのではなく、まずは既存のイベントに参加して手伝ってみたりと、少しずつステップアップしていく様が見れて、頼もしいなと思いました。
- ・去年も私たちの活動（地域食堂）に関わってくれた高校生の皆さんの発表を聞きにきました。毎年刺激をもらえて、私達も更に頑張ろうという前向きな気持ちにさせてくれる、素敵な取り組みだと思います。若い学生達が頑張ってる姿は、大人を突き動かす大きな力があると実感しています。地域が抱える課題は、目の前で見て、当事者から聞き取って初めて、こんな事が出来ないだろうか、こんな形で力になれないだろうかというイメージーションが湧いてくると思うので、いろんな現場に出かけて、生徒さん自身が体感できる機会が大事だと思います。
- ・吉賀町に住んでいますが、吉高生の活動についてほとんど知らず、今回をきっかけに興味を持つことができました。より多くの町民の方に今回のような発表会を見ていただけると、興味を持って協力してくれる方がたくさんいるのではないかと思います。
- ・発表を聞くのは今回で3回目ですが、吉高生徒が毎回進化してきているように感じています。これからの吉高生も卒業していく吉高生も将来が楽しみです。
- ・住民が生活慣れで気付かないことや当たり前と思っていることに改善を要すことなど結構あるような気がします。高校生の気付きでどんどん挑戦し提案することで地域に活気が生まれることもあると思います。頑張ってください。





まなみの定理
犬（健康+人間）= 犬と人間の健康フード

いわこうち まなみ




～目次～

- ・私のWill & Can & Need
- ・仮説
- ・仕事の概要
- ・アクション
- ・My story
- ・謝辞




まなみのWill & Can & Need



犬と関わりたい



華道ができる



何をあげたらいいの
(犬に)

仮説

もし、犬に継続的に野菜を与えることが
できたら健康寿命が伸びて
一緒に過ごす時間が増えるのではないだろうか



仕事の概要



犬と人間が同じものを食べられる
食品を作る仕事

詳しく....

- ・人間のアレルギー、犬のアレルギー
に対応した食品
- ・犬の健康について気にかける

↓

ドッグバーガー

調査①

犬に野菜が必要な理由

- ・栄養バランスを整えるため
- ・腸内環境の改善
- ・肥満予防 & 体重管理
- ・アレルギー対策としてのかわりの食材



ペットフード会社にインタビュー!!

株式会社 white fox

- ・パンズは小麦粉と米粉のどちらが良いのか
- ・犬に与えてはいけない食材や、注意が必要な食材
などなど....



or



or



or



アンケート結果

犬の食事のアンケート

→ 高校広報「めたせこいあ」に掲載

↓ 町内全戸に
配布されたが...

回答なし!!!!



Wan!ton 情報

- 人にとって栄養バランスの良い食事
→ 犬にとってはそうじゃない



必要な栄養素は似ているが
必要な量が違う



試作のバンズレシピ

- | 材料 | ケイトリング用 |
|------------|---------|
| ・パン用米粉 | ・砂糖 |
| ・ドライイースト | ・お湯 |
| ・サラダ油 | |
| ・ぬるま湯 | |
| ・砂糖&塩 ちよっと | |



試作の結果

環境

- ・オーブンが使えなかった...
→ トースターで焼いた
- ・調理室の室温が低かった...
→ パンがうまく発酵しなかった

ベーグル

- ・お餅のような、おかきのような味
- ・パサパサ、もちもち

バーガーの中身 メイン&スイーツ

メインver

つくねバーガー 鳥ミンチ & 小松菜



スイーツver

さつまいもバーガー さつまいも



将来との関連性

助産師（看護師）



人の健康に関わる仕事



食を通して健康を考えるきっかけ



まなみの変化

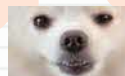
興味

成長

課題



人と犬の違い



調査



計画性

予定

予定

- ① 試作の改善
- ② 実際に犬と食事
- ③ アンケート実施

~Next Stage~

栄養素の面を気にしながら
ドッグバーガーを追求していきたい



お世話になった方々

桜美林大学の大学生の方々
株式会社 White fox 様

ありがとうございました！

THANK YOU!



みんな楽しむ！

廃校イベント！

1年

寺井亜梨沙

上田夏希

内田寿々

水津亜輝人

このテーマにした理由

廃校を利用したいと言う役場の方の声
小中高生をターゲットとした多世代交流



廃校で吉賀町の子どもたちが
交流できるイベントづくり！

わたしたちの Will・Can・Need

Will

- ・多世代が関われる場をつくる
- ・子供と関わる

Can

- ・年代問わずたくさんの人と話したりすること

Need

- ・廃校を利用することができる
- ・地域の方々が関わる事のできる場が増える

PJの目的

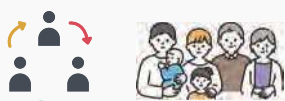
廃校でイベントを行うことで・・・



- ・廃校を持続的に活用させたい
- ・地域をより活気づけたい
- ・吉賀高校に興味をもってもらいたい

初期の事業内容

町内にある廃校を地域の方が気軽に来れ、
多世代の方々が交流しながら楽しめる場にする。



FWその1

- ・吉高での大学生交流（8月）
- ・東京研修での大学生交流（10月）



大学生からもらったアドバイス

【8月】

- ・廃校にこだわる理由をneedといっしょに考える
- ・幅広い年代に共通することはあるのか
- ・需要はあるのか
- ・どうやって廃校を利用するのか

【10月】

- ・お子さんを連れてくる保護者のことも考える
- ・高校生だからできることに取り組むと良い



何をどう変えたか

- ・多世代交流⇒小中高生に絞った
- ・廃校限定でイベント⇒廃校でなくてもよい！
まずはイベントを開くことを目標に

FWその2

- HEKICHI KAKINOKIさんへインタビューへ行く
↳ HEKICHI KAKINOKIさんの活動について教えていただいた
- ぐるぐる食堂さんへ実際に行く
↳ 実際に行ってみることでイベントの雰囲気が分かった
- 柿木の村民大運動会のボランティアへ行く
↳ 柿木の小中学生にイベントについてのアンケートを取り、小中学生の希望を知れた。

アンケートからクラフトイベントや
クッキングイベントが人気



FWその3

2月1日(日) HEKICHI
KAKINOKIでのぐるぐる食堂
にて節分イベント開催

- 紙皿で作るお面作成
- シール交換
など



イベントの振り返り・考察

- 会場が広い→子どもたちが自由に活動できる
- 未就学児・小学生が大勢参加してくれた
- お面制作→簡単→仕事が苦手・未就学児でもできた
- 工作しながら会話を楽しんでいた
→お話し合いイベントも楽しんでくれそう



イベントから見た課題

- 老朽化・金銭面による廃校の持続的活用の
難しさ
- 地域を活性化→様々な年代向けのイベントを
企画することが必要
- 高校に興味をもってもらうにはまだ早い年齢



振り返り

- 計画や連絡を早めに余裕を持って行うことの大切さを実感した。
- 声掛けや興味を持ってもらえるようなアンケート制作を向上させたいと思った。
- 大人の方とコミュニケーションを取れるようになった



成長・変容

- コミュニケーションの面で成長することができた
- 柔軟に物事を進められるようになった
- 対応力が身に付いた



次の一歩

多世代が交流できるイベントの
必要性を改めて確かめ、開催回数を増やす

自分たちだけで人を集めイベントを行う！



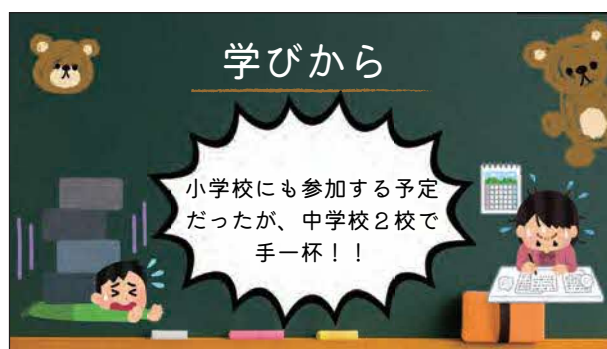
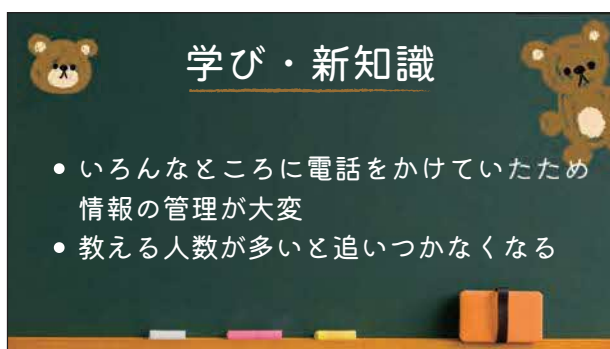
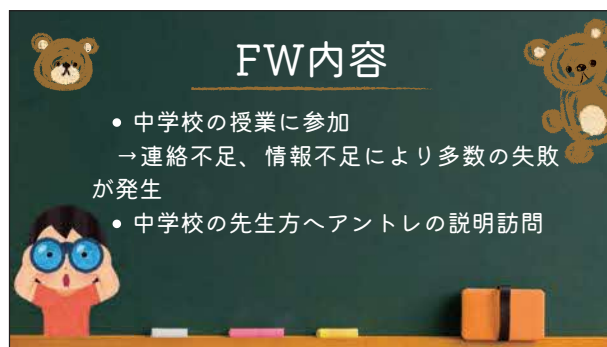
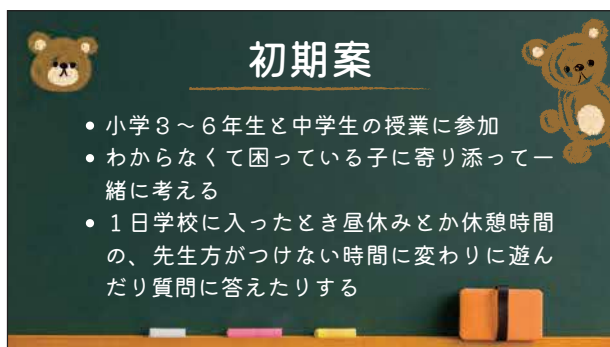
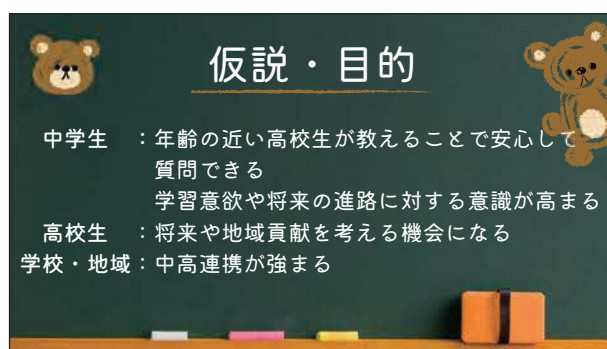
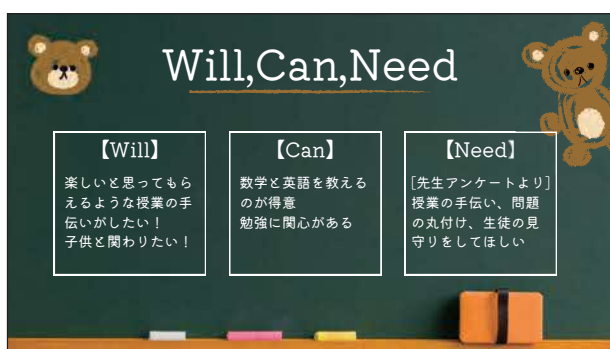
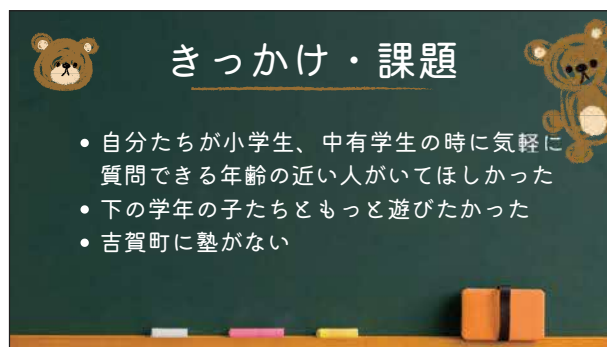
お世話になった方々

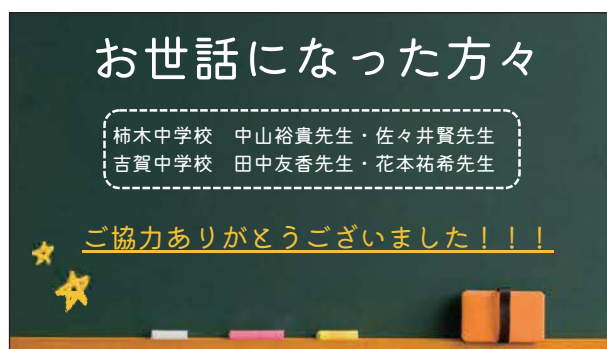
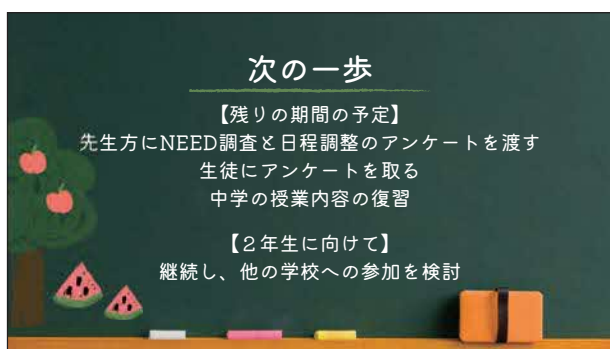
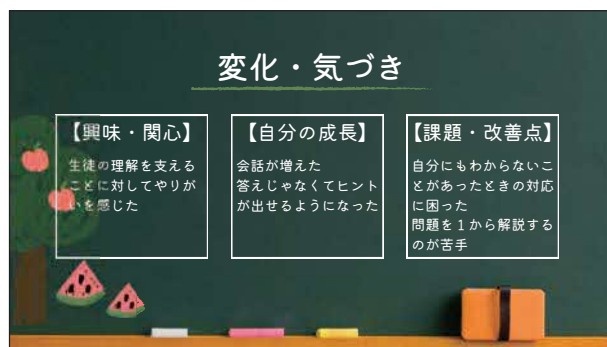
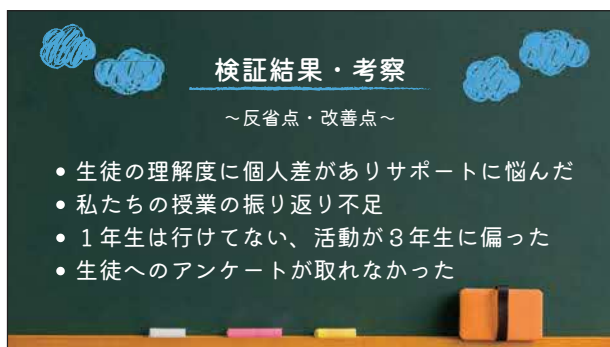
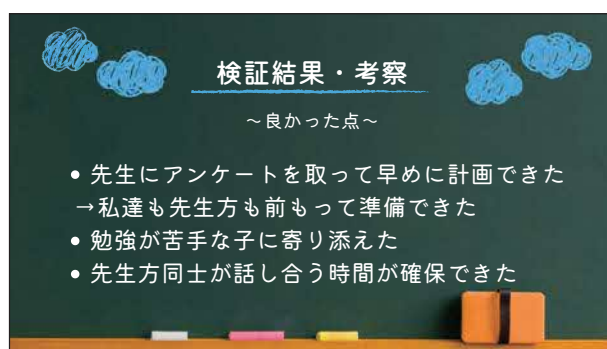
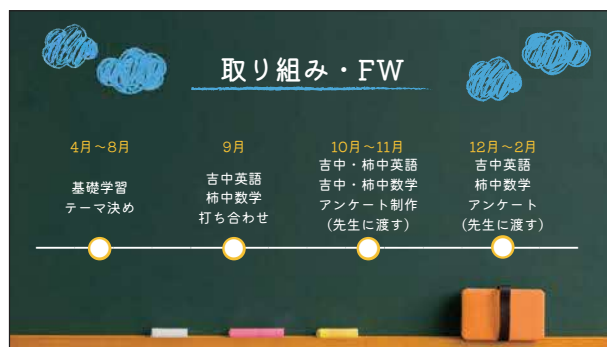
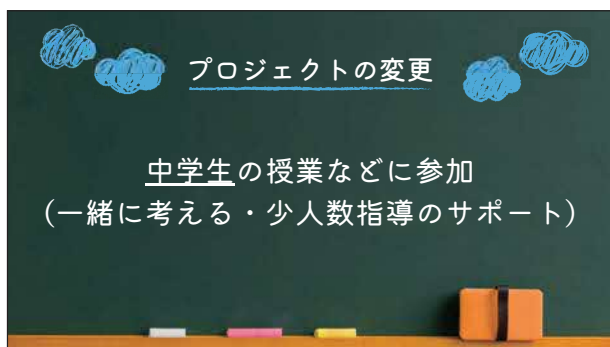
THANK YOU!

- 法政大学・桜美林大学の皆さん
- 田村 薫平さん
- ぐるぐる食堂の皆さん

ありがとうございました！







高齢者を手伝い隊



岡田空真

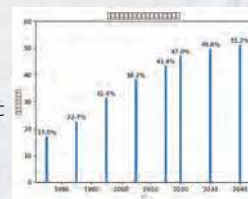
羽野日葵

下野礼生

松本美優

きっかけ・課題

吉賀町は高齢化が進んでいる
高齢者からのneedがあると思った



引用： https://www.town.yoshika.lg.jp/bousai/transport/yoshikap191118.data/201911yp10_16.pdf

will, can, need

will

困っている高齢者の方たちを助けたい

can

コミュニケーション力仕事

need

草刈り、除雪
運動不足の解消

目的

- ・吉賀町に住んでいる高齢者の方の困っていることを手伝い負担を減らしたい
- ・高齢者の方が元気になれば吉賀町も活性化するのではないかな



高校生が草刈りや雪かきを手伝う

初期案

草刈りや雪かきを手伝う！

FW内容①

(アンケート調査)

- 9/18 七日市百歳体操
- 9/20 なないろ食堂（七日市）
- 11/2 きんみんさい（六日市）
- 11/8 七カ祭り（七日市）
- 11/12 百歳体操（柿木）
- 11/16 きんみんさい（柿木）
- 11/18 百歳体操（朝倉）

学び・新知識

実際の声を聞くことが大切

→地域のイベントに参加しインタビューをした

元気な方が多い

→思っていたより困っている人が少なかった
(イベントに参加している人は大体元気な人だから)

スマホ教室に需要があった

→スマホを教えてほしいという人が多かった

FW内容②

(インタビュー調査)

社協・シルバー人材センター
石井さん、斎藤さん
上田さん、山本さん

学び・新知識

草刈りや草抜き、雪かきは断念する

→シルバー人材センターが草抜きなどのサービスを行っている
高校生は時間や交通手段の関係で難しい

社協のサービスを普及させるのを断念する

→サービスの利用者数がこれ以上増えてしまうと負担になってしまうから

自分たちが地域のイベントに参加することも大切

→高校生がイベントに参加するだけでも立派なボランティアになる

改善

草刈り、草抜き、除雪をする✕



シルバー人材センターの
方々がやってくれていた✕



スマホ教室で周知する✕



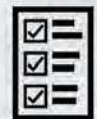
イベントに参加してスマホ教室を開く○

成果

なないろ食堂に参加し、
スマホ教室を開催する

課題

- ・情報共有がしっかり出来ていなかった
- ・事前に計画を立てていなかった



自身の成長



コミュニケーション能力が上がった

自身の変容



自分から行動するようになった

次の一步

なないろ食堂でスマホ教室を開き
LINEの使い方を教える

朝倉公民館
斎藤さん

なないろ食堂
藤井さん

七日市公民館
桑原さん

社協・シルバー人材センター
石井さん、斎藤さん
上田さん、山本さん

ありがとうございました



スポーツイベントコーディネーター

齋藤冬聖 中野祥太郎

始めたきっかけ

小学生のときの小体連の大会楽しかった
↓
小体連の大会なくなった
↓
小、中学生の交流する場が減ったことで
他校との関わりが減ってきたと感じたから

will can need



運動すること



運動を子供に
教えること



小中学生たちの他校との
関わりが減った

目的



- ・吉賀町の子供たちが大会をする中で関わりを楽しんでもらうこと。
- ・運動が苦手な子どもたちも運動を好きになってもらう。

仕事の概要

小・中学生を対象のスポーツの大会をひらく
→小中学生の関わるの機会をつくる



- 1 企画する
- 2 運営する



先行事例

- ・町内合同陸上大会（2019年まで）
- ・鹿足郡陸上競技大会（2016年まで）
- ・山吹杯（陸上大会）
→吉賀町で唯一今でも
開催されている陸上大会



FW内容

- ・山吹杯を開催されている山吹薫さんにお話を伺って大会運営の方法や人員の手配をどのようにして行うかなどのお話を聞かせてもらいました。
- ・選手として柿木の運動会に参加しました。



学び・新知識

- ・大会に出場してみて、改めて大会によって沢山のひとと交流できると気付きました。
- ・運営の方々は招集をかけたり、審判をしたりかなり大変そうだと思いました。

改善

大会は一年など長い期間で計画を立てるので、私達が1年生の間に大会を開くのは難しい



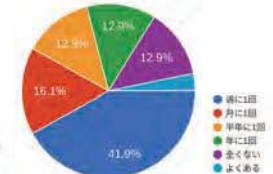
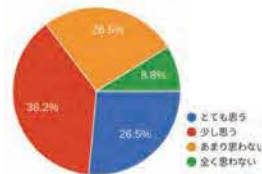
今年度は小さなステップを積み重ねていく方針へ



吉賀中学校にアンケートをとりました。

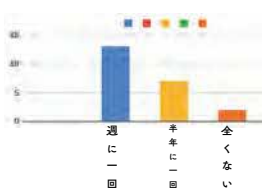
5) 町内の他の学校の人達ともっと関わりたいと思いますか。

3) 他の学校の人と関わる頻度はどのくらいですか。



七日市小学校にもアンケートをとりました

Q他校の人と関わる回数はどのくらいですか？



Q他校の人と関わりたいと思いますか？



吉賀中学校と七日市小学校のアンケートの結果から考察

- ・町内の生徒たちが学校以外で現在も続いていることがわかった
- ・「関わりたくない」という子もいる希望者のみの参加というのも考えられる。



課題



- ・新しいneedを見つけること
- ・まだまだ町内の子どもたち全体にはアンケートを取れていないので他の町内の小・中学校にアンケートをとる

次の一歩

町内の小・中学校にアンケートを取ってNeedを見つける。

＜残り期間の予定＞

- ・アンケートをとる
- ・スポーツトレーナー、小学校の校長先生、教育委員会の方に企画の相談をさせてもらう

自身の成長・気づき

- ・大人の方とのコミュニケーションが上手になった
- ・計画は早めに余裕をもって取り組むことが大切だと思った



Thank You.



- ・山吹薫さん (山吹塾)
- ・城市博明校長先生 (吉賀中学校)
- ・大峠直也教頭先生 (七日市小学校)
- ・アンケートに答えてくださった小中学生の皆様

おしゃべりチャンネル

～1年間の成果と今後の展望～

吉賀高校一年 福田 菜 三浦 奈々 原田 柚希

きっかけ

「小中学生と話す場所を作る」

小中学生が話したいことを話せたり
遊んだりすることのできる場所

なぜこのテーマ？

町内の不登校生を減らしたい

当初のきっかけ



おしゃべりチャンネルの理念



対象 高校生と話してみたい小中学生

当初の目的
悩みを解決し、不登校生を減らすこと

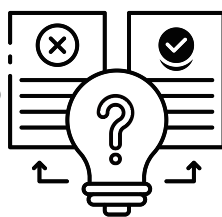
きっかけ・課題

小中学生と話すことで



悩みを抱える人が減り

町内の不登校生が減少する



FW内容

交流前

Need
町内の小中学生の
不登校生を減らすために
悩みを聞き解決する



Needの規模が大きく解決できない
悩みが来るかもしれない

大学生と
交流してみよう

交流後

Need
小中学生が話せる
場所づくり



現実的なNeedになり
行動しやすくなった

成果

Before

仮説 目的

小中学生と関わることで
不登校生が減少する

After

小中学生の話し相手になることで
話す場所をつくる

吉賀中学校、七日市小学校4～6年生
を対象に行なったアンケート

全体で話したいと答えてくれた人の割合 50人中10人
悩んでいる人が多かった悩みランキング

第1位 勉強について(10人)

同率第2位 友達関係について(9人)
将来について(9人)

第3位 学校のことについて(7人)

ユタラボさん

先行事例

日時：木、金曜日 16時00分～20時00分

土曜日 13時00分～18時00分

対象：10代、20代の若者
(高校生、大学生、若手社会人)

- ・学校 職場 家庭 以外の第3の拠点
- ・若者に対しての秘密基地
- ・自学自習・コワーキングスペース、地域や人の情報の案内所、カフェとして、利用可能な地域交流スペース

小中学生を対象に行なったアンケートの結果

◎相談を受けた子どもたちの変化

▶進路系の相談では、スッキリすること多い

◎利用者の方との親しみ方

▶興味を持って聞くこと。興味を持つ姿勢が大切

◎アイスブレイクの必要性はあるか

▶ある(ウェルカムな雰囲気づくりが可能になる)

変化・成果

交流前

Need

町内の小中学生の不登校生を減らすために悩みを聞き解決する



Needの規模が大きく解決できない悩みが来るかもしれない

大学生と交流してみよう

交流後

Need

小中学生が話せる場所づくり



現実的なNeedになり行動しやすくなった

一年間を振り返った課題

計画が曖昧だった

あまり進まず、止まってしまうことがあった

対策

先を見据えて初めの計画を練ること

行動に移しにくい場面があった

原因

失敗を恐れていた
計画の曖昧さ

自分の変化・気づき

気づき

過程の難しさ

計画性の重要性

何かを身につける必要性

変化

自発的に行動できるようになった

進路・将来とのつながり

なぜこのテーマなのか

人と直接関わる仕事をしたい



そのためには

経験・分析が必要

将来へのヒント

より具体的な将来を思い描くことができた

コミュニケーションを大切にする働き方をしたい

今後の予定

実際に話す場所をつくる



対処方法→専門の方に伺う(スクールカウンセラー等)



雰囲気や会話のコツ
→ユタラボさんにアンケートを送り、視察に行く



Thank You

【ゆたらぼ】
檜垣さん

ご協力ありがとうございました。



吉賀町ホームページ 改良プロジェクト

プロジェクトチーム 鳥山蓮斗 田原来弥 小藤輝流

テーマを選んだきっかけ

きっかけ

- ・行政に関わることがしたい
- ・吉賀町のHPが何年も変わっていない
- ・吉賀町のHPに魅力がない

will can need

will

吉賀町のHPのデザインを考えたい
町外や県外の人に吉賀町の魅力を伝えたい

can

よりよいアイデアを考えること
分担して活動すること

need

町内：地域住民にとって分かりやすいHPにする
町外：知りたい情報をすぐ知ることができる

地域の課題・創りたい未来

人口減少

持続的に
人が来てくれる

高校の入学者減少

移住者の低下

HPが吉賀町に
来てくれる
きっかけになる

知名度の無さ

最初のプロジェクト案

最初の案：吉賀町のHP案を役場に提案する

役場の企画課も吉賀町のHPの変更案を
作ろうとしているところだった！

仮説・効果

仮説：吉賀町のHPを魅力的にすることで、興味を持ってもらい
他の地域から人を呼び込む



町内1回FW

吉賀町役場企画課の岡さん

<知ったこと>

- ・10年ぐらいHP変わっていない
- ・必要な情報がほしいときに探し出せない
- ・地域住民からの苦情が度々来る

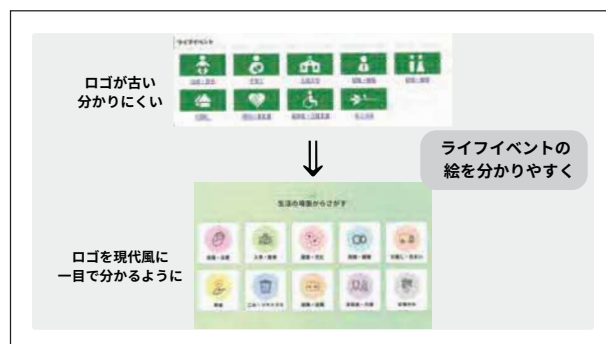


※架空の案です

←吉賀の写真を
入れます

利便性に富んだ
HPの案





町内 2 回FW

株式会社アスコンさんとのFW

HPの案が帰ってこない...

→ 広報誌の作成に取り掛かる

↓

広報誌についてのお話を聞くことに

学び・新知識

- ・正しい情報を発信する重要性
- ・見る人の立場で考える大切さ
- ・様々な事態を想定して行動する
- ・積極的に行動する大切さ
 ↳ 実践に移せない時間があつた

現在の進捗状況 & 今後の活動予定

現在の進捗状況

- ・ HPの変更案を松江情報センターに出している
- ・ 株式会社アスコンから広報誌やHP改善案を共有

今後の活動予定

- ・ 2月の吉賀町広報誌の表紙作成
- ・ HPの動作確認、情報の分類分け

現在の課題

- ・ 吉賀町HPが松江情報センターから返ってこない
 ⇒ 次の作業に取りかけられない
- ・ 今後の活動の見通しが持てていない

自身の変化・成長したこと

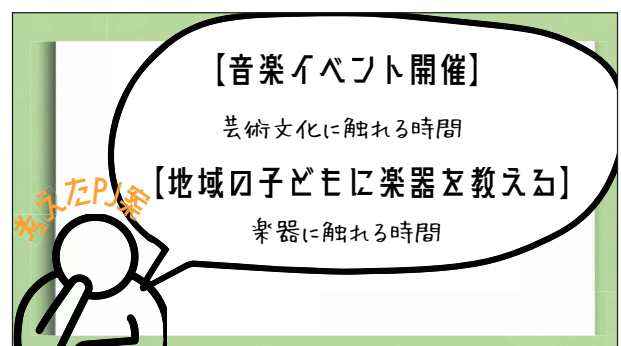
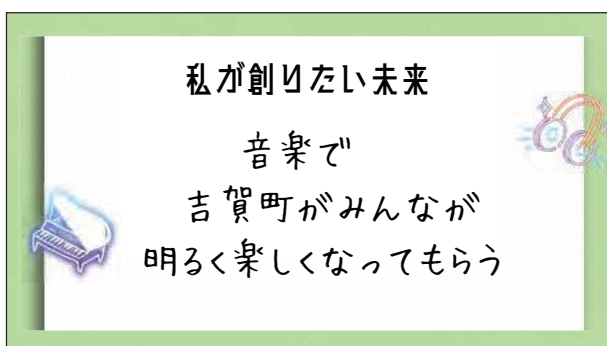
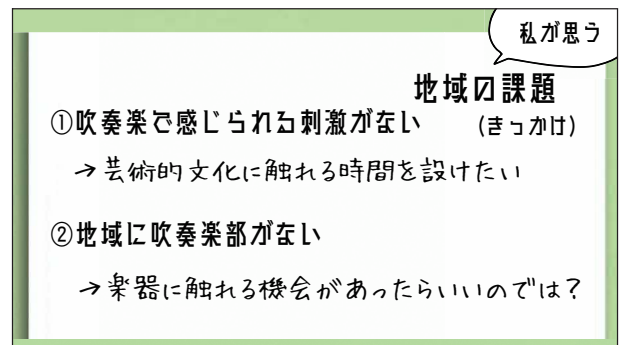
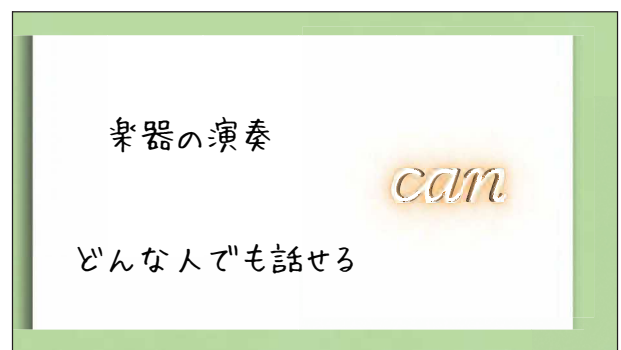
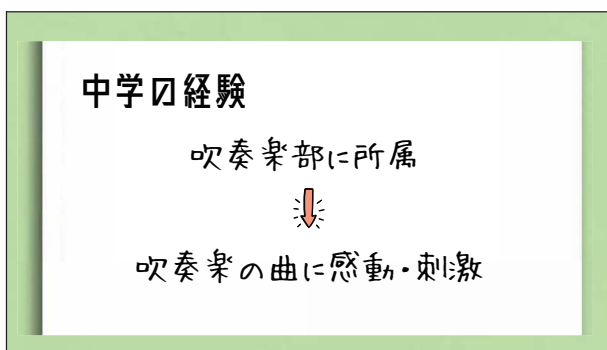
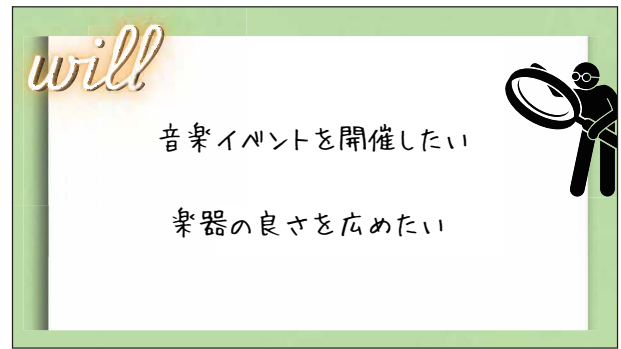
- ・ コミュニケーション能力
- ・ 他視点から物事をみること
- ・ 今後の予定や進捗状況をまとめる習慣が身についた
- ・ インタビューの際に質問を考えながら話を聞くことができた

謝辞

吉賀町役場企画課 岡 高儀 さん

株式会社アスコン 石田和子 さん
戸田歩由美さん

貴重なご意見、ご協力ありがとうございました。
 今後もよろしくお願いいたします。



2つの仮説

- ・イベントを開催することで
吹奏楽の良さ、興味を持ってもらえる
- ・経験者が講師になり
楽器を教えることで、楽器の良さを知る

コラボ相手

益田市民吹奏楽団様
来年度の文化祭に
参加決定！

コラボ相手とすること

- ・音楽部とのコラボ
- ・曲決め
- ・吹奏楽の演奏



発表の際にもらったアドバイス

スライドの文字多すぎ案件
イベントで聞き込みをしたら



プロジェクトの反省

- ・何も行動でできなかった
→優先順位をつけた
- ・モチベーションが保てなかった



これからの予定

2月中
校内アンケート（曲のジャンル等）
曲決め 練習



今後の進路について

興味・関心

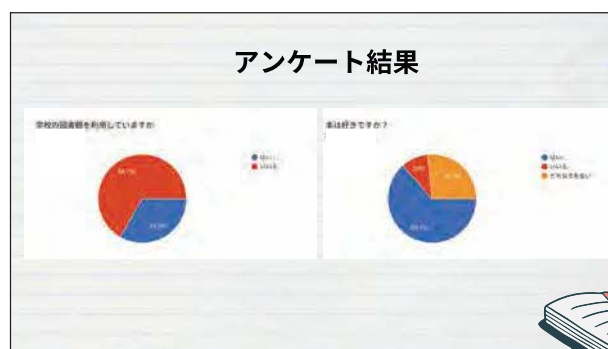
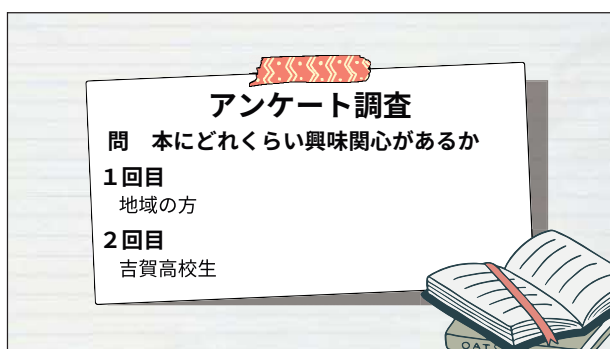
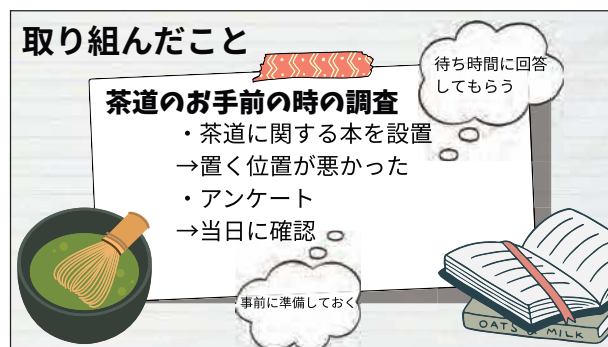
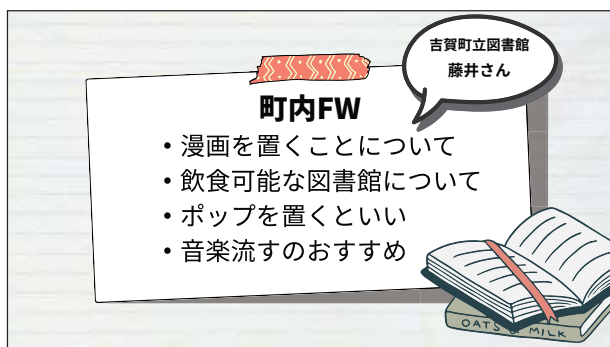
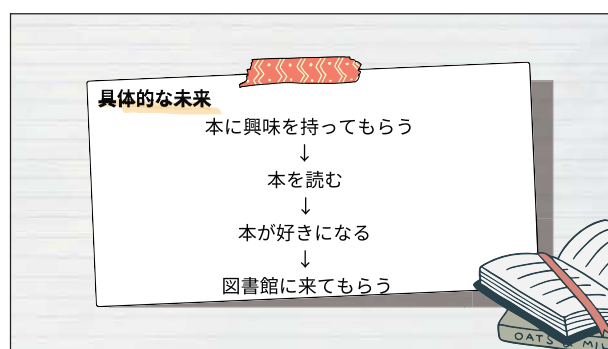
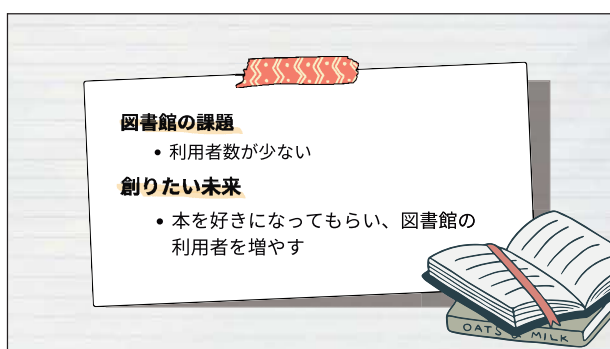
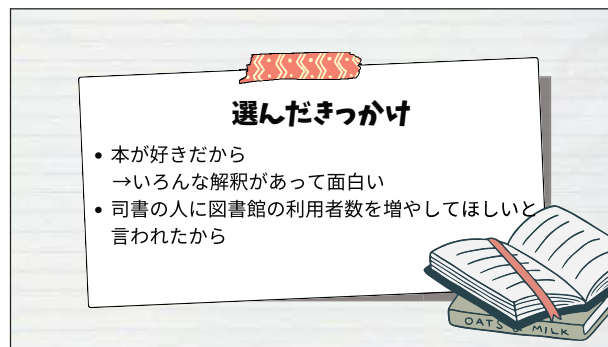
音楽 英語

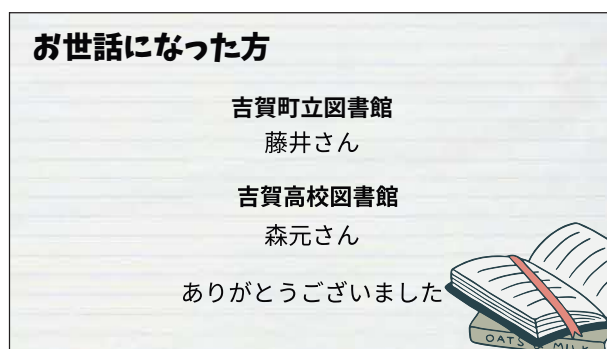
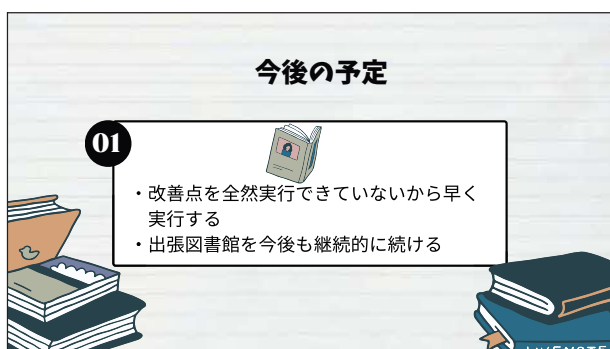
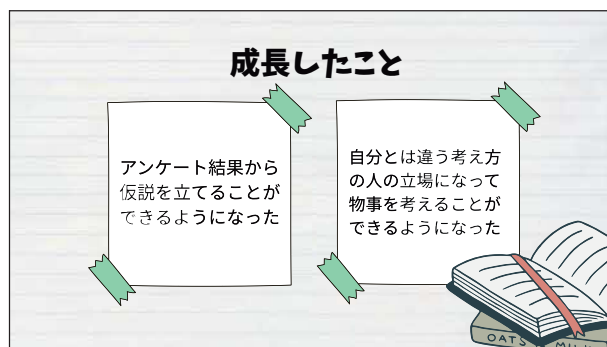
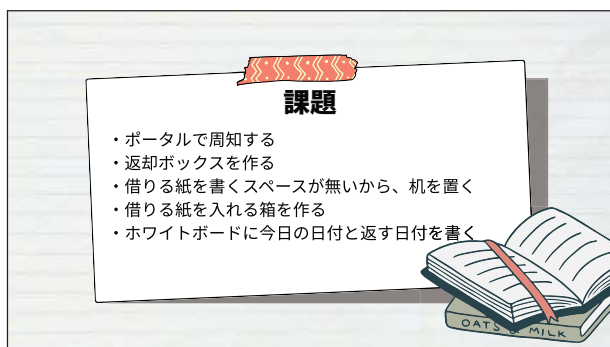
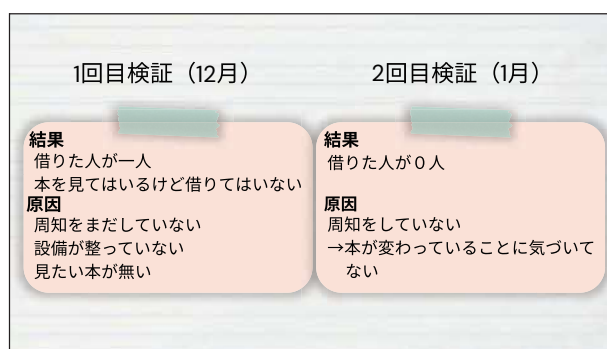
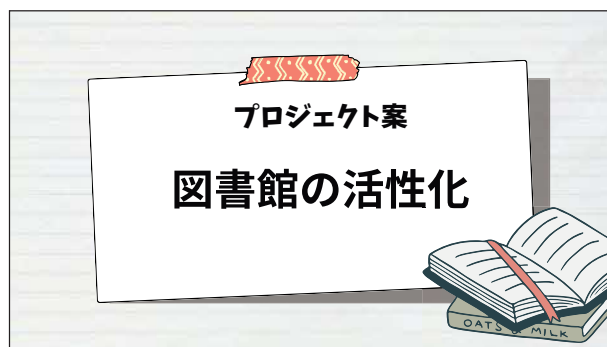
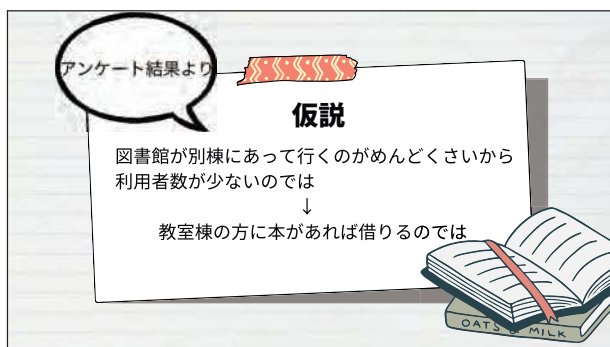
希望の進路

関西、関東の大学 国際系コース

謝辞

益田市民吹奏楽団様
高津川テラス 村上奈々子様
ありがとうございました







きっかけ

- ・疲労回復する料理を知りたい
- ・料理がしたい

課題

- ・運動後の疲労回復する食事を知っている人がいるかわからない
- ・学校内で疲労回復する料理を知っている人をアンケート調査する

Will

↓料理でみんなを健康にし、疲労回復につながる料理を学び、広めたい。

Can

↓メニューを考えて料理ができる

Need

↓疲労回復に効果的な料理を知っている人が少ない。

目的

・疲労回復に効果的な料理を知って、みんなが元気で健康に過ごせるようにする。

最初のプロジェクト案

- ・疲労回復におすすめな料理を聞き、試作する
- ・生徒、教員に疲労回復料理を食べてもらい評価してもらう。

フィールドワーク

田園に行き、永島さんにどんな食べ物が疲労回復しやすいのかなど話を聞いた



学び・新知識

- ・クエン酸や梅干し、お酢などが疲労回復におすすめ
- ・仕入れ、仕込みの方法など

実践



試作：鶏もも肉の梅しそ焼き

- ・鶏モモの梅しそ焼きを試作した
- ・先生方や運動部の人に食べてもらう
- ・アンケートを取った。

気づき

- ・鶏肉から出る油が多かった
- ・作るのが意外と簡単だった



実践

アンケート結果

- ・美味しかった
- ・梅やしその存在感を出す、野菜を添えるなど
- ・鶏もも肉ではなく鶏むね肉のほうが良い



次回に向けての課題



- ・疲労回復したかを測定する方法がわからない
↳ アンケートを取る
- ・次回は鶏モモではなく鶏むねで作る

アントレの反省点

- ・自分たちのneedで活動した



今後は地域の人々のneedも入れて活動する

- ・行動に移すのが遅かった



しっかりと計画を立ててその日にはできるようにする

成長・変容

- ・自分たちで計画を立てれるようになった
↳ 献立の試作など
- ・コミュニケーション力
↳ アポ取りなど

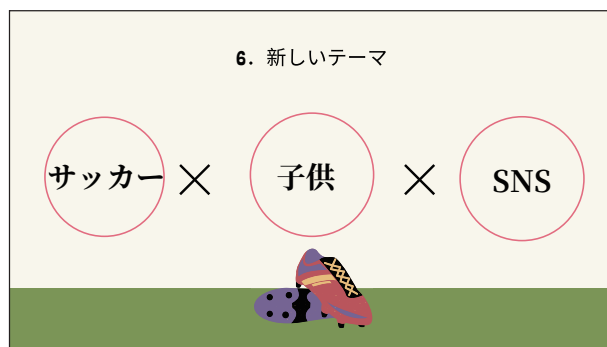
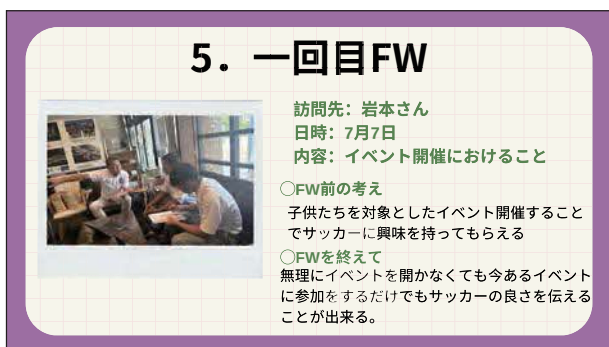
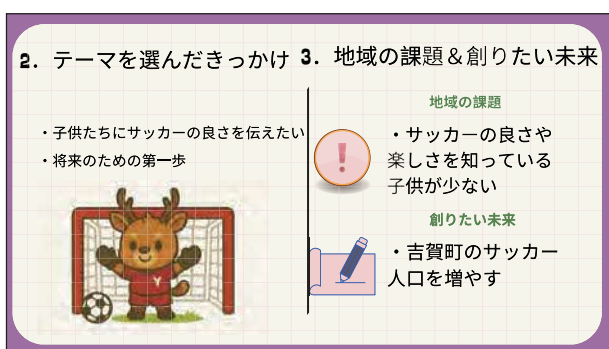
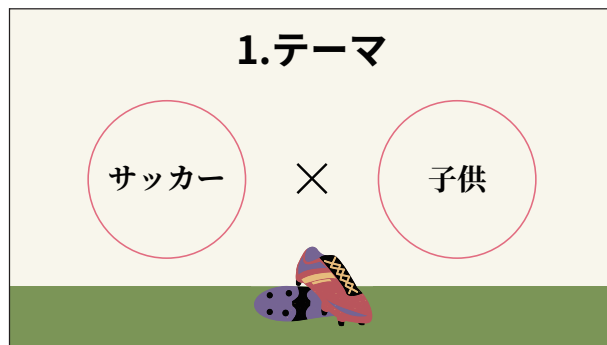


今後の予定

- ・地域の人々のneedを確認しつつ献立を制し、校内の人たちを疲労回復させる
- ・料理を知ってもらうための方法を考える

田園 永島 近洋 様

自分たちのFWに協力してくださり
ありがとうございました



7. PJ

プロジェクト内容

…吉高サッカー部の練習風景・環境を撮影&投稿して
魅力を発信

目的

…吉高サッカー部の部員数増加

仮説

…SNSを活用して多くの人に魅力を伝え、興味を持っ
てもらうことで部員を増やす事ができる



8. 活動について

○活用するSNS



アカウント名

yoshikasoccerclub_2025

○検証方法

いいね数

フォロワー数

コメント



◎多くの人に知ってもらうには？



マスコットキャラクター

◎今年中の目標&最終的な目標

✓ フォロワー：今年中に**1000人!!**

✓ 吉高サッカー部入部数：**20人以上!**

✓ サッカーのイベントの開催

11. 気づき&学んだこと

気づき

- 吉高サッカー部の部員数が少ない理由
- 地域で開かれているイベントの大切さ

学んだこと

- 子供との接し方
- 魅力の伝え方



自身の

成長したこと

- 指導力向上
…子どもたちにも伝わりやすい指導方法
を知ることができた。

課題・大変だったこと

- 魅力をうまく伝えるための編集の工夫
- 計画・実行力



次の一步

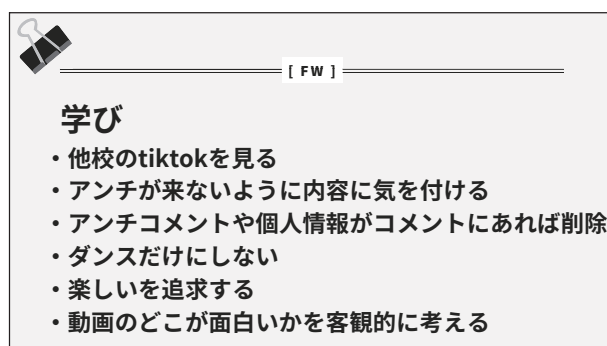
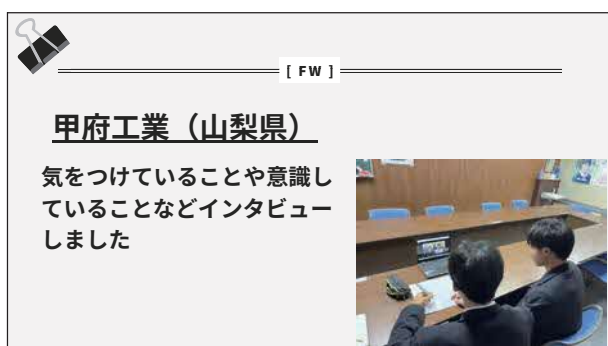
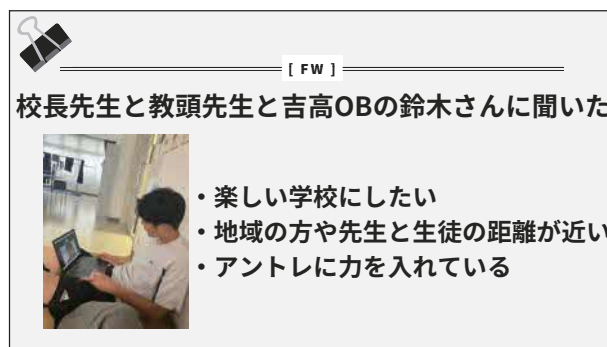
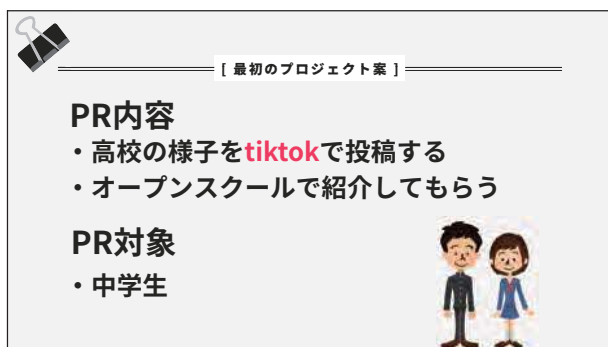
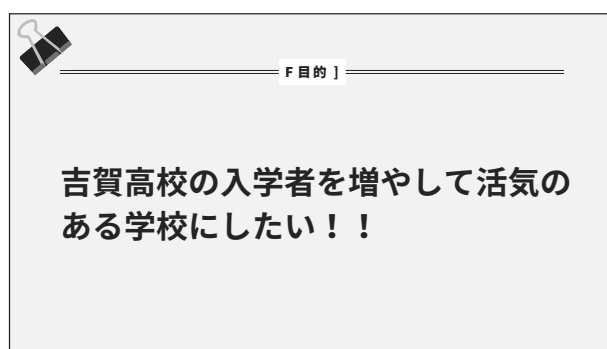
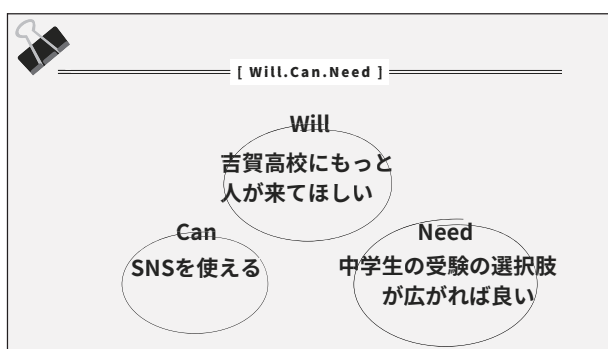
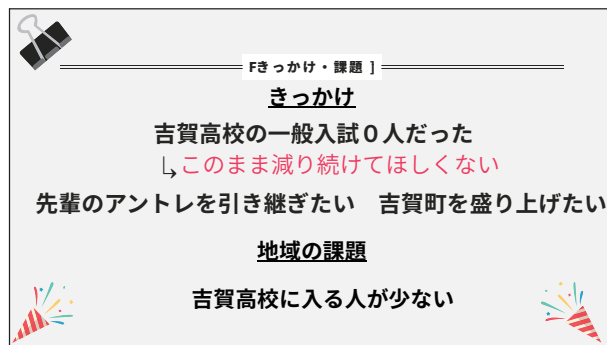
- ✓ 金曜日：投稿
それまでに素材集め



謝辞



- 岩本明彦さん
- 吉賀高校サッカー部
- 紫近倶楽部さん



【 FW 】

一本目の動画を投稿！



効果測定方法
⇒ いいね、再生数、フォロワー数の増加

【 実践の効果・気づき 】

気づき

- ・若い男性が多い
- ・島根県、吉賀高校の検索が多い
- ・ほとんどおすめから流れてきている
- ・視聴数の大半は一日
- ・最初の4秒で視聴数が50%減っている
- ・フォロワーがいると再生数が多くなる

【 実践の効果・気づき 】

改善点

- ・音楽が使用できないもので途中で切れてしまった
- ・動画を短くする
- ・動画にアニメーションを増やす
- ・最初を印象強くする
- ・文字の読み上げ機能をつける

【 FW 】

二本目を投稿しました！



前回の反省を活かした投稿！

【 実践の効果・気づき 】

違い（1本目→2本目）

- ・視聴数、新規フォロワー数の減少
→音源が使えなかったから？（tiktok riteのおすめに出てこないから）
- ・検索から視聴されてることが多くなった
→#を検索されやすいものに変えた
- ・フル視聴の増加
→最初のインパクトを強くした

【 F 反省と学んだこと 】

前回の発表から活動出来なかった

→やることを先延ばしにしない

目標が達成できなかった

→自分に見合った目標を立てる

【 F アントレを通して成長したこと 】

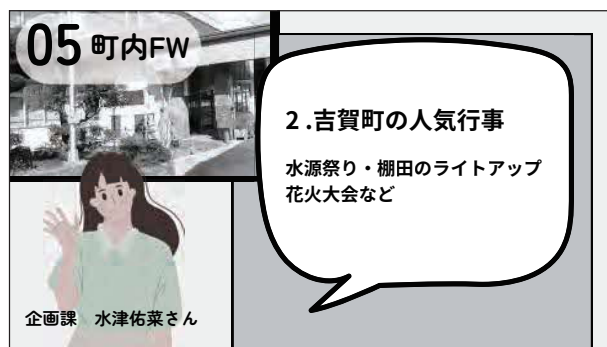
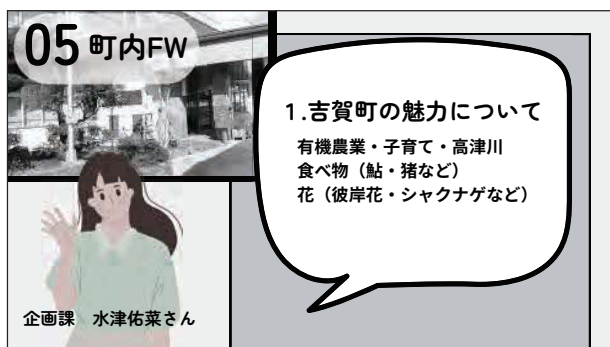
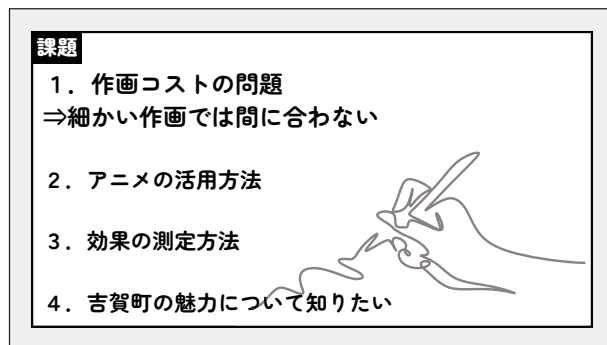
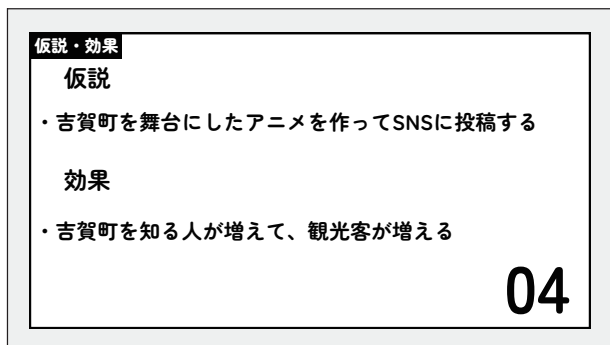
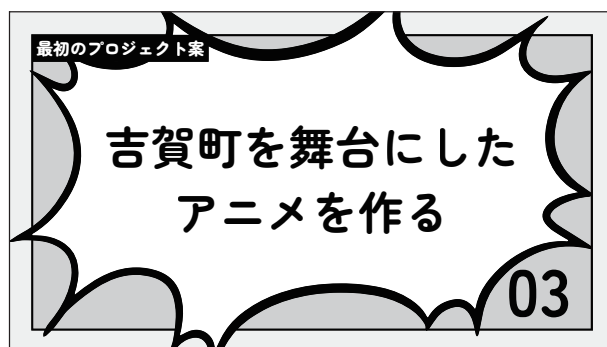
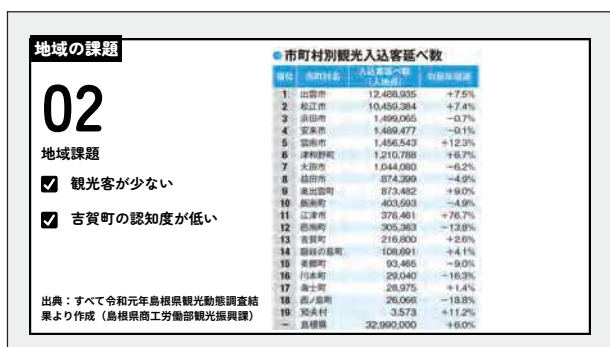
- ・動画編集が出来るようになった
- ・スライド作りが上手くなった
- ・コミュニケーション能力



【 協力してくれた方 】

校内	河井俊彦先生 駿馬敦史先生
OB	鈴木健太さん
山梨県立甲府工業	生徒・先生の皆様

ご協力ありがとうございました



05 町内FW



企画課 水津佑菜さん

3.映像制作で大事なこと

映像を制作するうえでは
迫力・最初の印象が大事

⇒アニメ制作へ

アニメの制作コストの削減について

ロトスコープ技法
絵コンテをもとに実写映像を1フレームずつなぞり、
それを元にアニメーションを制作する技法

影なし・デジタル作画の導入

背景は写真加工で



アニメの活用方法について

吉賀町公式YouTubeでの公開を予定
背景に吉賀町の多様な景色をいれる



06

撮影協力者

撮影開始

須藤来夢さん

佐藤咲和さん



行ったプロジェクト内容と課題

絵コンテ制作・撮影
⇒絵コンテは半年ほどかかった
撮影は順調に進んだ
⇒動画を見てもらえるような方法を
考える（needに応える）
⇒締め切りまでに間に合うか

07



今後の活動

来年の5月までに作画完成を目指す
今：2分の1ほど線画完成
⇒クオリティーよりも締め切りを優先

08



アニメ制作にお世話になった方

吉賀町役場 企画課 水津佑菜さん



アニメのイメージボード





健康

河内愛純 宮本紗和



興味を持ったきっかけ

- ・高齢者が好きで一緒に活動したかったから
- ・将来の職業に活かすため



地域の課題

全国 高齢化率	吉賀町 高齢化率
29.3% (2024)	44.8% (2020)

※65歳以上



創りたい未来

吉賀町の高齢者の方々が健康への関心を高め、健康に過ごせるようになる



FW 吉賀町社会福祉協議会

高齢者が参加するイベントで大切なこと

- ・トイレ休憩
- ・顔色の確認
- ・耳が遠い方のためにスピーカーを用意



FW 吉賀町役場保健福祉課

企画をする上で大切なこと

- ・対象者に合わせた取り組み
- ・集団の特徴を事前に情報収集
- ・スライドなど文字の色合い



FWを通しての気づき・課題

女性：みんなで集まってワイワイする活動が好き
男性：目的がしっかりある企画が好き

高齢者の健康課題

- ・運動習慣がない人が5~6割
- ・教室に参加してくれる男性が少ない



仮説

高齢者がイベントに参加できるようになる

↓

健康への意識が高まる



プロジェクト案

高齢者の方が健康になれるようなイベントを開く

えがお健康教室の集客方法

- ・ 社協が行っている配食サービス時にチラシを配布
- ・ 七日市公民館で行われている麻雀教室で参加者を募る
- ・ 公共施設にポスター掲示



えがお健康教室 in 六日市基幹集落センター

65歳以上の高齢者対象

内容

チーム対抗 脳トレ（秋に関するクイズ）
チーム対抗 風船バレー、リレー
→全員で風船リレー



反省点

改善点

イベントを知らない方が多かった	広報や回覧板でお知らせする
QRコードでの参加申し込みは難しい	FAXでの参加申し込みも可能にする
送迎がないと行けない	吉賀町役場と相談して送迎可能にする
クイズが簡単だった	難易度を高くする
申し込み〇、参加×の人	前日に配食サービスに参加し周知

若返り測定隊 in 社会福祉協議会

内容

- 1.測定
- 2.基本チェックリストの実施、結果の見方の説明
- 3.講話（認知症予防のポイント）



反省点

改善点

エクササイズの内容を十分に伝えなかった	どのような効果があるのか伝える
エクササイズについてこれてない人がいた	練習時間を作る

成長したところ

- ・ アンケート結果や振り返りをもとに、どう改善するかを考える力が成長した
- ・ イベントを開催する中で対応力がついた

お世話になった方々

吉賀町役場保健福祉課 長嶺智美様
吉賀町社会福祉協議会 坂下春奈様
包案楽 様
坂下千恵様

テーマ 子ども

西田阿禾 三浦音葉 松本鈴華

きっかけ・課題

きっかけ

- 子どもが好き
- 子どもと関わりたい
- 保育士に興味がある

課題

- 主体性の引き出し方
- 喧嘩の仲裁の仕方
- 主体性に焦点を置く

Will・can・need

will

子どもが好き

can

園児と
同じ目線で
遊ぶこと

need

保育所に
余ったものを
使った遊びを
考える

仮説

園児たちが工夫しながら遊び
考える力や協調性などを身につける

↓ そのために...

保育所に余った材料をつかいつつ
園児が学べる遊びを考える

↓ よって...

保育所のニーズを叶えられる

→ 主体性を引き出したい
保育所に余ったものを使ってほしい

最初のプロジェクト案

保育園で季節ごとのイベントを開催する。

子どもたちと吉高の中庭にお花を植える。

町内FW

- 7月** 七光保育所 園長先生に課題インタビュー
- 9月** 子どもたちと関わる
- 12月** 主任さんに遊び案提出
- 1月** 園長先生に企画相談・後日企画書提出

学び・意識

- 7月** 遊びの中で学んでもらう
話し始めに言葉の前置きをする
- 9月** 積極性が大事
- 12月** いろいろな想定をして遊びを工夫する
- 1月** 遊びを考えるうえでテーマ決めが大切




改善

- ・季節のイベント要素を取り入れて企画
→ 例) ハロウィン、節分
- ・飾り付けをメインに活動してもらう
→ 園児が自分で主体性を引き出せる
- ・どんなものを作るか想像できるような内容を導入
→ 自作紙芝居を読んでテーマを意識させる
- ・園児の主体性を引き出せる問いかけ方
→ 例) グループになるときに園児たちに分かれ方を決めてもらう

実施

『ハロウィンイベント』

目的

- ・季節ごとに楽しめる遊び
- ・園児にハロウィンを楽しんでもらう

内容

ハロウィンキャンディーを配る



成果

振り返り

- ・イベントを楽しんでくれた
- ・喜んでくれた
- ・子どもたちと関わるいい機会になった
- ・過去のFWを振り返ることができた



実施

『ダンボールハウス』

目的

- ・遊びの中で学んでもらう

内容

- ・グループに分かれてダンボールハウスに子どもたちの好きな飾り付けをする

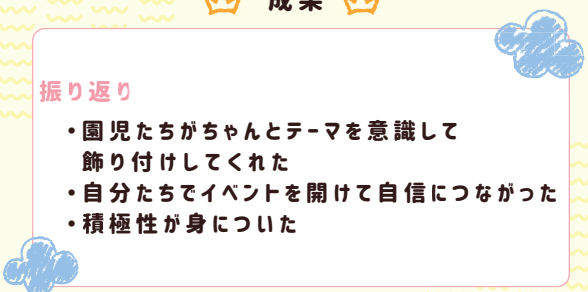
→手先の器用さ、想像力、協調性、遊びを楽しむ



成果

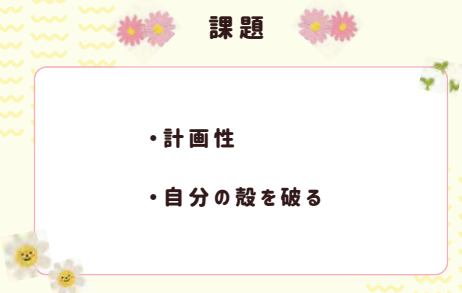
振り返り

- ・園児たちがちゃんとテーマを意識して飾り付けしてくれた
- ・自分たちでイベントを開けて自信につながった
- ・積極性が身についた



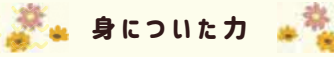
課題

- ・計画性
- ・自分の殻を破る



身についた力

- ・意見を言えるようになった
- ・行動力が身についた
- ・まとめる力
- ・コミュニケーション能力
- ・広い視野を持って考える力



成長

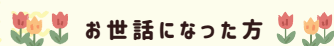
- ・園児の状態を考えて臨機応変に対応できた
- ・子どもの目線になって関わる事ができた
- ・色々なパターンを想像して考える事ができた



お世話になった方

七光保育所 園長 有田 五海さん
主任 桑原文子さん
保育士の皆さん

遊びを実際実践させていただいたためのアドバイスやイベントの提案をしてくださりありがとうございました！



よしかの里

～コッペパンでよしかの里をPR～

新田陽生・富安神愛

このテーマを選んだきっかけ・課題



- ・商品販売に興味があったから
- ・B型事業所とはどのような場所か気になったから
- ・障害者福祉の現場が気になったから
- ・家の近くにあった気になったから
- ・工賃UPに貢献したいと思ったから

- ・工賃があまり高くない
- ・県外などでの知名度があまり高くない
- ・SNSなどを活用した宣伝ができていない

WILL

売上を上げたい

NEED

工賃UP

CAN

販売をする

作りたい未来

- ・工賃がUPする
- ・SNSを活用して知名度を上げる
- ・ポイントカードを作る

利用者さんの生活が豊かになり、自立につながる

そのためにすること

- ・インスタグラム以外のSNSで広める
- ・校内販売継続、イベント販売に行く

最初のプロジェクト案

- ・吉賀高校にコッペパンの訪問販売に来てもらう
- ・ポイントカードを作る
- ・SNSを活用して宣伝を行う
- ・新たなコッペパンのメニューを作る

7月FW

よしかの里に訪問(向井さん・谷川さん)

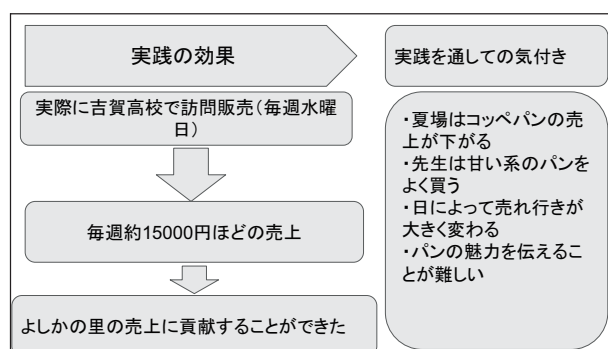
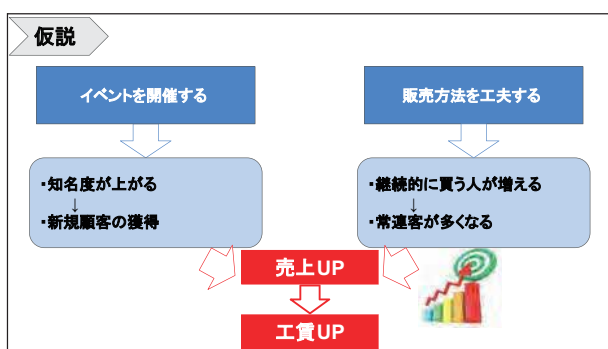
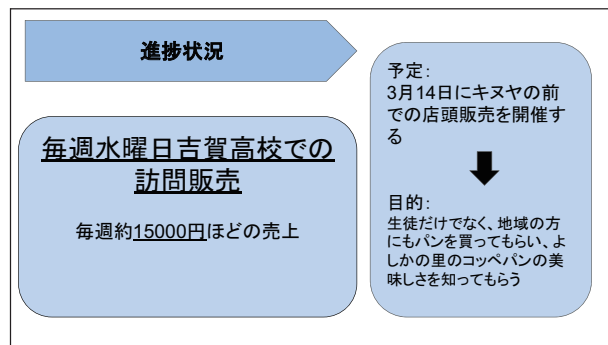
- ・イベント出店や今後取り組みたいことなどについて話す

訪問を通してわかったこと

- ・錦こいこい祭りに出店
- ・たくさんイベントに出店

運営の方に連絡して出店させて頂いた





イベント出店

104,190円の売上!

錦こいこい祭りに参加

- ・缶パン、クッキー、コッペパン、あげぱん
- ・呼びかけ、パンの補充、出店場所の準備
- ・呼びかけに買いやすくなるような工夫を加えた。
- ・挨拶をしっかりとした。

成長したこと

- ・計画力の向上
- ・想像力がついた
- ・販売に関する知識の向上
- ・判断力がついた

これから活動していきたいこと

- ・SNSでの活動を通し宣伝をすること
 - ★ PR動画を撮る
 - インフルエンサーにPRを依頼
- ・町内や県外のイベントに出店する
 - ★ 地域のスーパーでの店頭販売
 - 県外のイベントで販売

アントレでお世話になった方々

よしかの里

向井幹男さん 谷川亮輔さん

ありがとうございました!

Yoshika One Project

2-1 江谷 羽絆



犬と飼い主さん同士が
交流できる場をつくりたい

Will

犬が好き
動物と関わりたい

Can

1年次に
集客知識を身につけた

Need

ない



ZOOMでの

Fieldwork 1

Shake hand's (広島県)



Q犬の交流会開催に必要なことは？

- ・交流会開催に必要な資格はない
- ・事故防止のために専門家の力が必要

ZOOMでの

Fieldwork 2

ドッグライフサポートセンターReliSt (山口県)



Q犬の交流会開催に必要なことは？

- ・人間同士のトラブル対策が必要
- ・獣医さんは協力的な人が多い

吉賀町の現状

ペット文化の不足

- ・犬同士の社会性を育てる場の不足
- ・ペットが孤立しやすい状況



PJ案と仮説

PJ案

犬の交流会を開催



仮説

ペット文化、動物への理解向上に
繋がるのでは？



企画準備

ReliStの林さんと協力 (LINEで打ち合わせ)



校庭の
使用許可



柵の確保



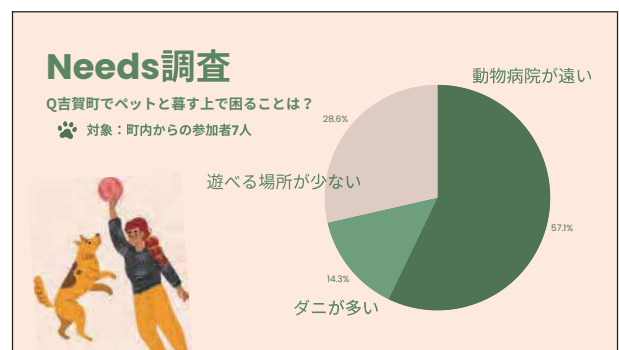
ワクチンに
関する知識



SNS活用
チラシ作成

作成したポスター





1

アントレ発表

吉賀高校PR

2年2組 井上 愛深

2

● テーマを選んだきっかけ...課題

きっかけ
一般入試志願者ゼロ▶過去10年間初めて
吉賀高校をPRする活動をする

課題
2025年度の新入生が16名（昨年：31名）
少子高齢化

3

● WILL CAN NEED

(WILL) 吉高のパンフレットをつくる

(CAN) 写真部だから写真が撮れる

(NEED) 新入生の増加、吉賀町・吉賀高校を知ってもらえる

4

● 活動の目的

今年の新入生が去年より増える

↓

吉賀高校を含め吉賀町を知ってもらう

5

● 初期案

○ 吉賀高校のパンフレットをつくる

- ・ 年間行事
- ・ アントレ
- ・ 部活動紹介 etc

● フィールドワーク

○ 吉賀高校 校長先生

- ・ 今までの自分の経験が活かせるもの
- ・ 学校のパンフレットとは違う生徒目線のものが良い

6

● 学び

- ・ 難しい話などをせず見るだけで面白いと思えるものにする
- ・ 学校のパンフレットとは違う系統のものが良い

7

改善

どんな日常を過ごしているのかが
わかるパンフレットを作る

吉高生の普段の様子の写真を使う

実践



よしか祭の告知、寮や放課後、体育祭の写真 etc...

実践



パンフレットについてのアンケート、よしか祭の様子の写真 etc...

9 成果

○アンケート結果（一人のみ）

- ・一人でも吉高に興味を持ってもらえた
- ・『見やすいパンフレットだった』と感想をもらった

○一般入試を受ける中学生がいる

- ・去年は一般入試を受ける中学生が居らず、登校日となったが、今年は休校日になったので、人数はわからないけど、入試を受ける中学生がいるのではと感じた。

9 課題

○オープンスクールに来るきっかけになる活動

- ・吉賀高校のオープンスクールに来た中学生にパンフレットを配ってPRをしていても、来ていない中学生にはどうPRするか
- ・『吉賀高校のオープンスクールに行こう』と思ってもらう活動ができていない

10 成長

- ・自分の活動について中学生に話せた
- ・1年間一人で活動し続けた
 - ➡一人でなにかをすることが苦手だったけど、最後まで一人でやり続けた。

10 気づき

写真を多めにすることで
難しい話が苦手でも
パンフレットを見ることができる

6 次の一歩

- クリアファイルのデザイン作成
 - ・オープンスクールなどで使う予定のクリアファイルの作成
- 次回のオープンスクール用のパンフレット
 - ・シンプルなデザインにして作る
 - ・1年生の修学旅行の感想などを取り入れる

謝辞

多くのご協力をいただき
ありがとうございました。

吉賀高校 2年 岡本 新大

現在石見神楽の高齢化、人口減少が石見地区全体で大きな問題となっている。

- ・私の所属している団体も、少子高齢化、人口減少が課題として挙がっている。
- ・他の団体でも、少子高齢化が問題では？
- ・神楽を知っていても、その目的・演目の内容・神楽の歴史について、石見地区に生まれていても知らない人が多い。



WILL

少子化を防ぎ、子供の神楽
人口を増やし、未来に残したい



CAN

神楽を実際にしている
神楽道具、神楽の知識がある



NEED

白谷神楽社中
「子供神楽を大きくしたい」



・ 神楽にあまり興味がない人、
興味はあるけどやりたいと思わない人



- ・興味を持ってもらって、神楽について深く知ってもらいたい。
- ・神楽団体に入ってほしい(将来的に)

小学校でやっている神楽クラブのサポートをしたい

🔍 仮説

- 高校生である自分自身が神楽に参加する姿勢を見せることで、小中学生を
活気づけられるのではないか。

 效果

- 自分の神楽に対する姿勢や、同世代の小中学生の頑張る姿で、
神楽やってみようと思う人がふえるのではないか。

白谷神楽社中：吉川さん
津和野町役場に務めながら、白谷社中の子どもたちの
神楽の指導を担われている。

 質問

- ・子供に教える人手が足りているか。
- ・手伝えることはないか。
- ・子供の社中員を増やしたいと思っているのか
- ・子供になにを学んでほしいか
- ・広報はどうやってしているか
- ・活動人数は？.....etc

● 回答

- ・柿木の小学生、園児を中心に運営されている
- ・神楽社中の大人がなかなか集まらない
- ・子供が集中して取り組む環境づくりが難しい
- ・舞手側の神楽が子供には面白くないと感じる
- ・子供が少ない
- ・即戦力になる中学生以上の人材が欲しい...etc

◎舞としての神楽に子供が面白さを感じていない。

🔍 なぜだろう？

- 舞手側になると、型などの多少の縛りで練習も単調になる。
- 単調になった反復練習が面白くない？

神楽クラブのサポートをするのは、
神楽の子供の人口を増やす直接的な解決にならないのでは？

神楽に関する情報を吉賀町の保育園児や、小中学生に伝える会を開く

假説

- 神楽に興味を持ってもらえるような話をする ことで一人でも神楽団体へ体験に行ったりする人が増えるのではないかな。

効果

- 神楽団体に子供や人が増えて、活気づくのではないか

08 FW 2

12/4 吉賀中にお話会へ！

- ・神楽がより面白くなる舞手側の見方を伝えて、興味を持ってもらおうとした
- ◎話をする上で、クイズを混ぜたり話に工夫を加えられた。
- ×神楽を何回も見ることがあり、神楽が好きじゃないと難しい話が多くなってしまった。

09 実践の効果・気づき②

- ・約15名の内、半数以上は神楽が好きだが実際にやってみたいと思う人はいなかった。
- ・内容が主旨とズレていたり、質問を投げかけたときの意図があやふやだった。
- ・お話会の内容が神楽を見たことない人にとって難しい話になった。
- ・演目の内容を詳しく話せる人は実際に神楽をやっている人しかいなかった。
- ・このお話会で、神楽がより好きになったという人もいた。

10 FW3

12/19 七日市小にお話会へ！

- ・神楽の実際の練習をしてみたり、簡単に楽しむための神楽の見方を教えたりした。

◎子供の反応を見ながら対応を変えることができた。

×アンケートを詳しく取ることができなかった。

実践の効果・気づき

- ・神楽自体は好きな人が多いと思った。
- ・約13名のほとんどが神楽が好きで、実際にやってみたいと思う人も3名ほどいた。
- ・今まで知らなかった、神楽の見方を知ってもらえた。
- ・神楽の基本姿勢も辛いけど、体験してみると面白かったといってくれた。
- ・このお話会で、神楽がより好きになったと多くの小学生に言ってもらえた。

一年間で成長した点・これから成長させたいこと

- ・FW後にすぐに反省して、次の活動に繋げられた。
- ・難しいことを噛み砕いて、なるべくわかりやすい形で伝える力がついた。



- ・計画性をもって、目的にあった行動ができているか考えられるようにしたい。
- ・人前に立ったときに、思った反応が来なかったときの対応力をつけたい。
- ・前もって準備できるようにしたい。

これからの課題

- ・地域に根づく伝統に対する子どもたちの思いを、より強くするために何をするべきか。
- ・地域の大人たちが本気で神楽に取り組む姿を見て、子どもたちの目標(ヒーロー)のような存在だと子供に感じてもらえるか

今後の予定

- ・神楽体験会を開こうとしている(3月)
- ・神楽体験をするために、白谷社中さんにコンタクトを取って実施できるのか、体験の内容や日程などを相談しようと思っている。

協力してくださった方々

吉賀町役場 総務課 上田様
白谷神楽社中 吉川様
吉賀中学校 鳥屋様
七日市小学校 教頭 大峠様
写真提供 坂本様・児玉様



ご協力ありがとうございました

YOSHIKA HIGH SCHOOL

web上で校内見学 を可能にする

2年1組 浅尾周稀

YOSHIKA HIGH SCHOOL

CONTENTS

- 01 きっかけ・will
- 02 課題
- 03 創りたい未来
- 04 最初のPJ案
- 05 仮説・効果
- 06 FW（フィールドワーク）
- 07 途中経過
- 08 活動からの気づき・課題
- 09 成長したこと
- 10 今後の活動予定

01 このテーマを選んだきっかけ・will

吉賀高校の一般入試志願者0名
2025年度（令和7年度）

生徒数の減少 情報発信不足

01 このテーマを選んだきっかけ・will

パソコンを使いたい 校内見学をweb上でしたい

自分のやりたいこと、吉賀高校に貢献を両立したい

02 課題 ASSIGNMENT

課題

吉賀高校の生徒数が減っている

県外の生徒が来るのは大変（オープンスクール）

実際に吉賀高校に来ていない中学生へ向けた
情報発信が足りない

03 創りたい未来 FUTURE

吉賀高校 校内見学

ネットでアクセスを可能にし、
より多くの中学生に
吉賀高校について知ってもらおう

04 最初のPJ案 FIRST PROJECT IDEA

吉賀高校の3D化

WEBからアクセス可能 吉賀高校の情報発信

05 仮説・効果 HYPOTHESIS・EFFECT

仮説1
web上で校内見学を可能にする

仮説2
学校生活の雰囲気を掴める

効果
県外問わず多くの人が吉賀高校について知れる

06 フィールドワーク FIELD WORK

【質問相手】
校長：河井 俊彦 様

01 Q 映さないでほしい場所

A 基本的には校内の撮影OK

02 Q 追加してほしい機能

A ゲームのように校内の人と会話ができる

03 Q 伝えたいこと

A 吉賀高校が行っている活動の様子（映像や写真など）

YOSHIKA HIGH SCHOOL

07 途中経過 PPROGRESS

校内を歩行可能

穴が空いている



YOSHIKA HIGH SCHOOL

07 途中経過 PPROGRESS

3DCG編集ソフト

メッシュ
当たり判定となるもの

学校と連携
→貫通を防止



YOSHIKA HIGH SCHOOL

08 活動からの気づき・課題 AWARENESS・ISSUES

＜気づき＞

- 抽出した3Dデータの修正点が多い
→穴が空いている部分を塞ぐなど
- 広い場所は分割撮りが必要
→一度に抽出すると解像度が下がってしまうため
- 撮る時間によって色に変化(自然光の強さより)
→日光による光や影によって色が素材にも反映される
- 中学生のニーズ調査の必要性
→中学生に向けた校内見学プロジェクトであるため

YOSHIKA HIGH SCHOOL

08 活動からの気づき・課題 AWARENESS・ISSUES

＜課題＞

- 建物全ての当たり判定（壁・床・階段など）
→この判定がなかった場合、壁を貫通や階段が登れないなどが起きる
- Web上に公開する方法
→誰でもアクセスを可能にするためにリンクから飛べる必要がある
- 吉賀高校の活動をどのように紹介するか
→部活動や行事を行っている様子など

YOSHIKA HIGH SCHOOL

09 成長したこと GROWTH

分析能力・・・どのように綺麗に撮れるか分析を行いながら活動していた

粘り強さ・・・うまくいかないことが多かったが、粘り強く取り組んだ

Blenderについての知識・・・作業する中で成長

YOSHIKA HIGH SCHOOL

10 今後の活動予定 PLAN

2月～9月までのざっくりした活動予定表

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
教室棟(1階廊下)								
教室棟(1階 教室)								
生徒玄関 お話し公園								
階段								
教室棟(2階廊下)								
教室棟(2階 教室)								

終わり次第作成開始

YOSHIKA HIGH SCHOOL

THANK YOU

プレゼンテーションをご覧いただき、ありがとうございました。

「吉賀高校」
教員：武田 健太郎 様・・・撮影道具の貸出
校長：河井 俊彦 様・・・インタビュー

YOSHIKA HIGH SCHOOL

よしか×かるた

橘 芽空見

きっかけ

1

もっと多くの小中学生と深く関わりたい

2

小学生から続けている競技かるたを吉賀町でも続けたい

3

かるたの楽しさを吉賀の小中学生にもっと知ってほしい

かるたの魅力

- 色々な人と話せる、色々な県に行ける
子供から大人まで広い年代でかるたを楽しんでいるから
- 反射神経が鍛えられる、マナーが身につく
札に始まり札に終わるから
- 成長がわかりやすい
練習すればするだけ変わるから

課題・未来

かるたを知っている人が少ない、する場所が少ない

益田市 5箇所
津和野町 1箇所
吉賀町 0箇所
→2024年7月に吉賀キッズかるたクラブ

年齢問わず楽しくかるたをする

吉賀キッズは
小2 6人 小3 1人
小4 1人 小5 2人
小6 1人 中1 1人
中2 2人 指導者4人

案・仮説

- 吉賀キッズかるたクラブのポスターを作り
かるたクラブの存在を知ってもらう
- ↓
- ポスターを見て、やりたいと思う人が増える

案・仮説



部屋が狭く取れる人数に限りがある(MAX6組)
→掲示は中止

FW①

吉賀キッズかるたクラブ

- ☒ 毎週火曜日 17:30~19:30 六日市公民館
- ☒ 六日市公民館和室
- ☒ 小学生11人、中学生3人、指導者4人

クラブの流れ

- 2024.07 ● 児童生徒7人、指導者3人で活動開始
- 2025.08 ● 吉賀キッズ初のC級武段
- 2026.02 ● 児童生徒14人、指導者3人で活動中

活動記録

益田市の大会
・山陰中央新報社杯争奪
・柿本人麿万葉かるた大会
・益田市大会

いなづま会主催
・12時間練習（5月、12月）
・いなづま杯団体戦大会

公認大会
・初段認定大会 ・職域
・益田大会 ・広島大会

昇段
・初段認定大会で3人昇段（D級）
・益田大会で3位 C級昇段

FW②

兵庫県立明石高校かるた部にメール
（夏休みに小学生向けのかるた教室をしている）

1
かるた教室をしようと
思ったきっかけ
より多くの子供達に百人一首かるたの魅力、楽しさを
知ってほしいから

2
困ったこと、苦勞したこと
普段練習する特別教室から
量を移動させること

→小学生の希望者向けならしたくない子が
いなかったいいと思った

FW③

七日市小学校の国語の授業に参加

ペットボトル倒し



青の10対10で試合



インスタ



[予定]
大会の結果や練習風景をアップ

新しい案・仮説

● 小学生にかかるたの楽しさを知ってもらおう！



● 七日市小学校の3,4年生に流行ると
全校に流行り、文化になる

振り返り

成長したこと、反省点

- ☒ かるたについて深く考えるようになった
- ☒ 計画が立てられず、イベントが開けなかった
- ☒ かるたを好きな小学生を増やすことができた

今後の予定

- 1 吉賀キッズ内でイベント企画
- 2 かるた経験のある大人の人を探す
→大学進学や転勤で続けられなくなる時が来るから
- 3 もっと広い量のある部屋を探す
→人数が増えて、練習場所が少なくなった
- 4 七日市小学校の朝活動に週1参加

蔵木小学校 並河智之校長先生
七日市小学校 大畑和恵先生
柿木小学校 武岡梨緒先生
吉賀キッズかるたクラブの皆さん
明石高校かるた部の皆さん

ありがとうございました！！

地域の輪作り

吉賀高校 本田 結愛

選んだきっかけ will 地域の課題

- 将来の夢に つながるから
- 朝倉でなにか やりたい
- 地域の方言士の つながりを作る
- 地域貢献
- 決まった人同士の 関わりしかない
- 高齢化

人数：585人
世帯数：297世帯

仮説 (作りたい未来)

みんなが知り合いの 地域

助け合い・情報交換 動かしあい

町内FW

7/2 朝倉公民館
最初のプロジェクト案
防災×地域の輪づくり
↓ 2つは難しい..
地域の輪づくり
1日体育館にお泊り
小学校にも協力を募ることに！

7/17 朝倉小学校
小学校のPTAが協力
10月 体育館にお泊り
↓
・寒いかもしれない
・地域の方は厳しい
1日から半日に変更

町内FW

10/25 山郷祭
イベントについて
宣伝させてもらった
↓
今からは 嬉しい..
一方で 10人近く 増

10/29 吉賀町役場
吉賀町役場 総務課
佐々木 育也 さん
聞いたこと
吉賀町の予想被害
災害に備え準備しておくの良いもの
テント・ベッド貸してもらった
アルファ米をいただいた

みんなで作ろう 輪の日

11月1日 15:00~19:30

★内容
かまどでカレーライス
お化け屋敷
防災クイズ

★参加人数
31人+7人(お手伝い)

色々な味の カレーができた

大人子どもの 協力が必要

カレー作り

防災グッズ体験

夕食・お化け屋敷

編やかに 話し声がたくさんした

ゲーム感覚で 防災食に触れてもらった

アンケート

地域の高齢者が少ない!!

年代

地域の人と 関わられたか

防災について 学べたか

地域の人からの声

★良い点

- ・普段関わらない人と関われた
- ・山祭りで周知したこと
- ・防災グッズの体験ができて良かった
- ・しっかり楽しめた
- ・お化け屋敷だけでなく防災クイズなどもしっかり楽しむことが出来た
- ・高校生が段取り頑張っているのを見て良かった

★改善点

- ・段取りがスムーズじゃなかった
- ・目的がわからなかった
- ・周知方法
- ・朝倉小の関係者が多め
- ・地域の方が少なすぎた
- ・チラシがあまりに良かった
- ・主催者の動きが中途半端だった

etc...

etc...

オンライン合同授業で
他校の生徒からアドバイスをもらった！

↓
イベントの
内容・時間帯について
高齢者対象にアンケート

12/23 ヨガ・100歳体操
門松づくり
⇒地域の方 12人が回答



○地域の方とやるイベントで興味があるもの

👑料理を作り、一緒に食べるイベント 32.1%

👑体を動かすイベント 28.6%

○どの時間のイベントだと参加しやすいか

👑昼(12時~15時) 50% 👑朝(8時~11時) 37.5%

春 10時~14時

↓
防災食体験

防災食体験 (春 10時~14時)

👑お化け屋敷 ⊕ 体を動かすイベント

↓

宝探し... 具材や道具を校舎の中に隠して見つけ出す

○周知方法

- ・ポスター掲示 (小学校・公民館)
- ・宣伝
- ・回覧板
- ・口頭で直接宣伝に行く (100歳体操・高齢者サロン)

アントレ活動を通して

○失敗点

- ・細かいところまで詰められてなかった
⇒イベントの当日に薪を準備していないことに気づいた
↓
シミュレーションをしっかりとる
- ・打ち合わせの内容をしっかりとめられてなかった
⇒時間内に終わらない・話したかったこと忘れてしまった
↓
資料にまとめていく・事前に送る

アントレ活動を通して

○成功点

- ・色んな人に協力を募ることができた
- ・地域の方の意見をしっかりと聞くことができた
- ・自分の考えをしっかりと人に伝えたり、行動できた

アントレ活動を通して

○気持ちの変化

- ①前 1人でできるか不安だった
- ②後 失敗しても、なんとかなる
⇒人の協力が必要
↓
日頃からのコミュニケーションを取る

お世話になった方々

朝倉地区の皆様

朝倉小学校

朝倉公民館

朝倉小学校PTA会長

吉賀町役場 総務課

吉賀町教育委員会

木地谷 里志 先生

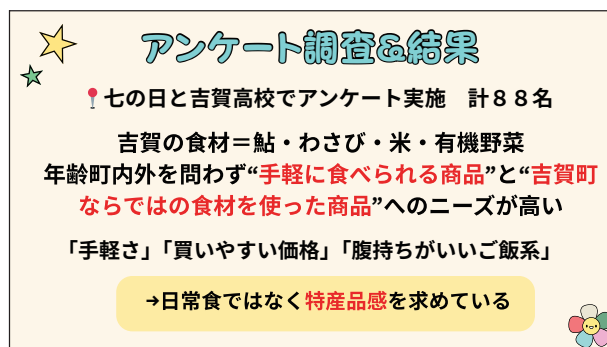
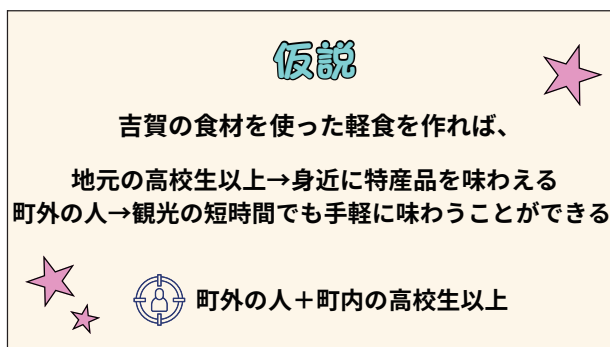
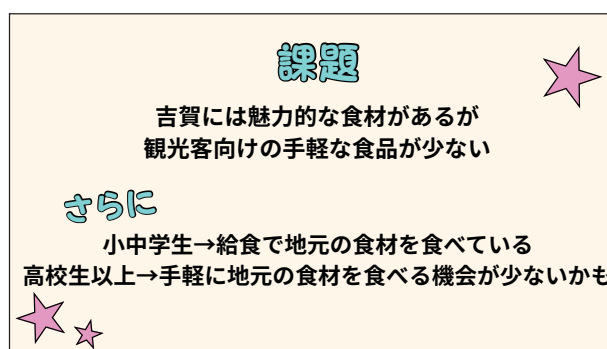
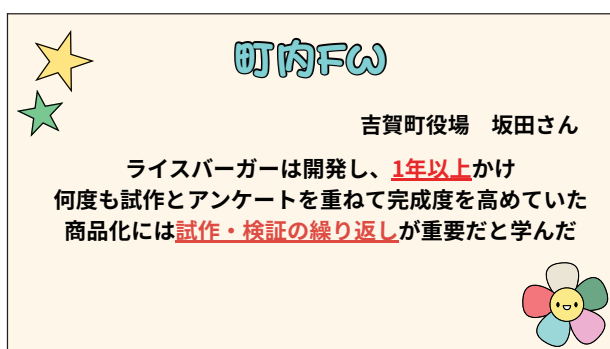
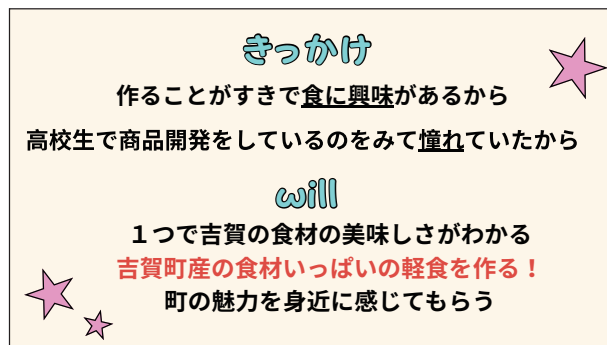
齋藤 心咲 様

石田 真衣 様

佐々木 育也 様

坂田 哲朗 様

ありがとうございました!!



気づき

わさびが**少ない**
鮎の量が**少ない**
断面がきれいに**出ない**
鮎の**川臭**が出る
味が**こってり**しすぎる

→**柚子胡椒や太葉**を入れてみる

試作②



①味噌わさびマヨ

大葉で**こってり感改善**
鮎の味が1番感じられる

②味噌柚子胡椒マヨ

さっぱりしている
鮎の香りが薄くなった

③味噌わさび柚子胡椒マヨ

ソース単体では美味しい
鮎の味が消えた

試食人数が少なく**一般受けする味**がわからない...
もっと多くの人の意見を聞きたい！

試作③

①味噌わさびマヨ



わさびの風味が良い
ピリッとするが辛すぎない
鮎の風味が**感じやすい**

②味噌柚子胡椒マヨ



柚子の香りが良い
さっぱり食べやすい
鮎の風味が**弱く**感じる

改善点

全体的に味が**薄い** わさびの量が**少ない**
鮎の**小骨**が気になる 具材の偏りや味の**ばらつき**
“わさびの辛さは人それぞれ”

結果

吉賀町らしさ・鮎の風味・幅広い年代

①**味噌わさびマヨ** に決定！

販売に向けて

☆**ライスバーガーの時** “ストーリーがとても大切”

米は無料 パッケージはネットで購入
益田の飲食店の方と協力

☆**おにぎり販売のチーム**

米は吉賀じゃない 鮎は吉賀の7kg24,500円
パッケージはネットで購入
スキー場の方と協力

現状と今後

4月に販売を目指して

パッケージ制作中

商品開発をした方の話聞き中

生産者さんと**食材交渉**

衛生面・販売ルールに関する**協力者**を探す

成長したところ

☆人の意見をもとに**考え直す力**がついた
☆課題を見つけ、**改善につなげる力**がついた

反省

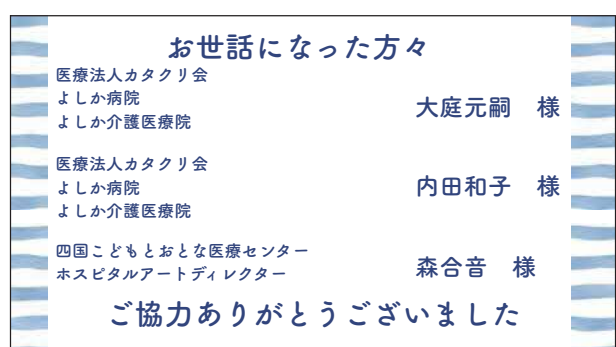
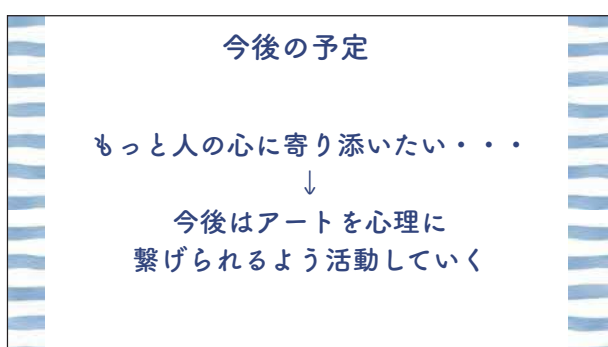
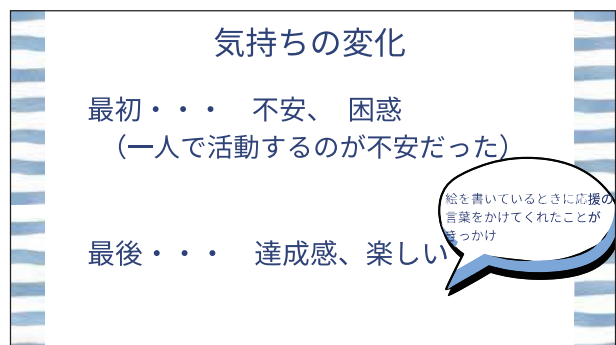
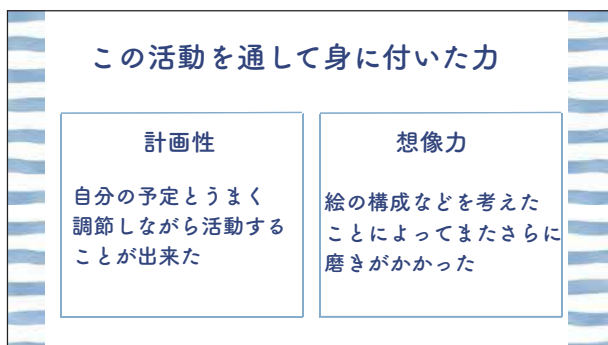
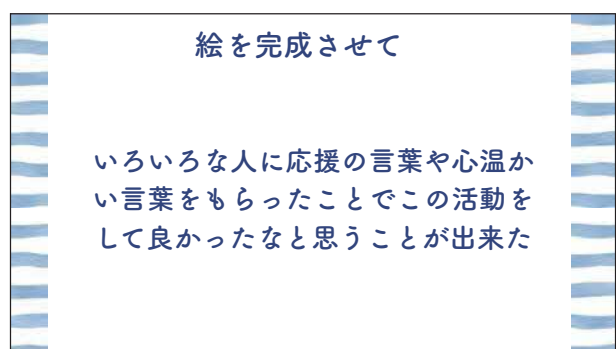
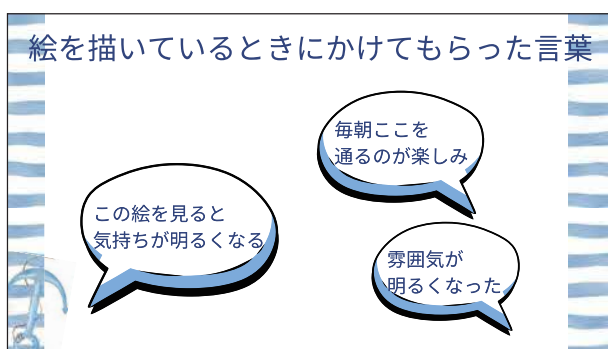
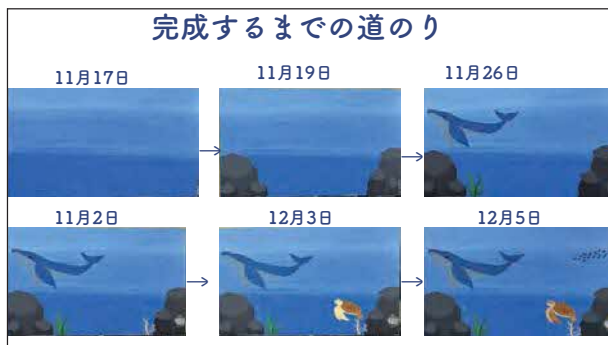
☆全体的に**取り組みが遅**れてしまった
☆同じ改善点が何度も出ていたにもかかわらず、
改善しきれなかった

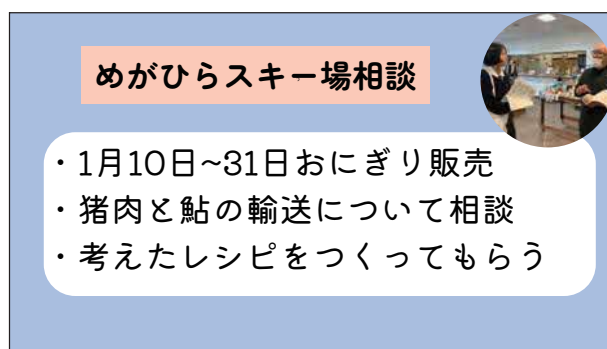
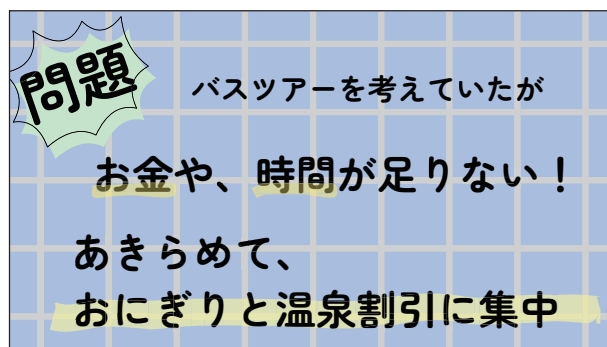
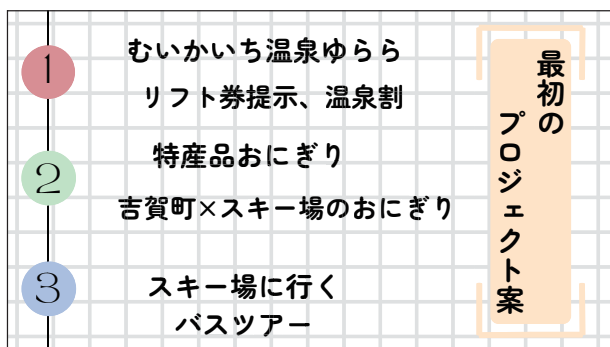
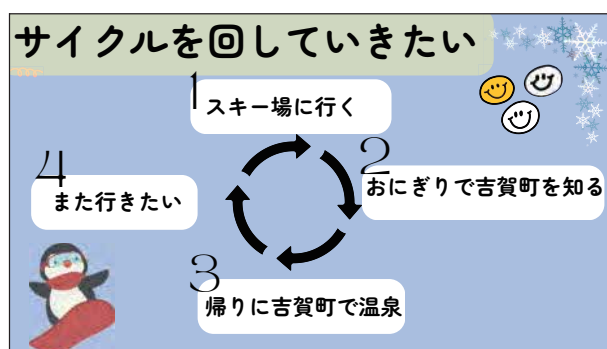
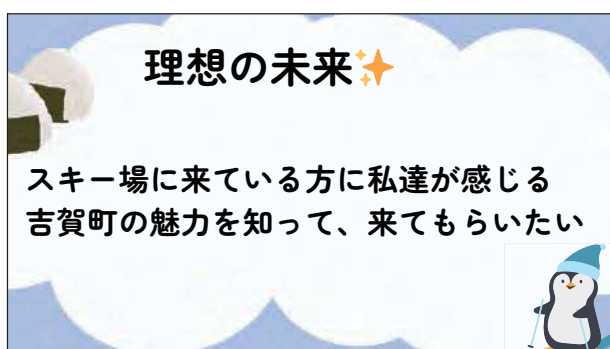
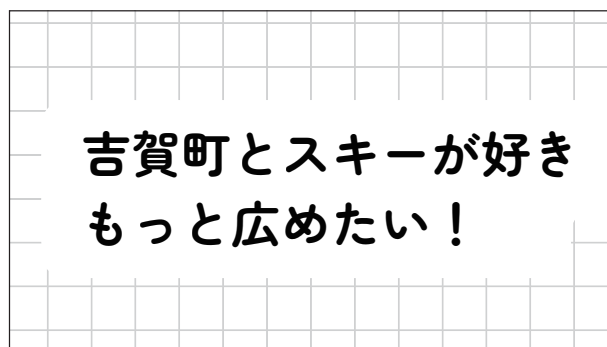
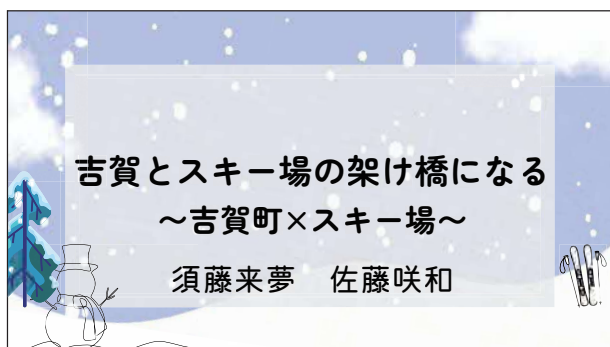
お世話になった方々

坂田紀之さん
土田裕久さん
齋藤佳孝さん

アンケートや試食にご協力いただいた皆様

ご協力ありがとうございました





温泉割引について

むいかいち温泉ゆらら一時中止

厳しいか…？



温泉割引可能

それだけじゃ魅力は伝わらない？



吉賀町を伝える取り組み

- ① 吉賀町に来てもらえるような動画
- ② 吉賀町のおすすめの商品を宣伝
- ③ ポスター
- ④ 山陰中央新報に取材を依頼

1月17日

スキー場でおにぎり販売してきました



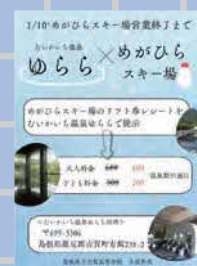
結果

1月10日～31日

温泉利用者 5人

動画視聴者 47人

おにぎり販売数 199個



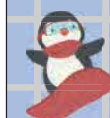
最終的にサイクルを回せた

1 スキー場に行く

4 また行きたい

2 おにぎりで吉賀町を知る

3 帰りに吉賀町で温泉



学び

繋がり

予定が狂う
→考え続ける！

人に伝える

優しい

これから

これまでの繋がりを大切に
イベントなどでおにぎりを販売していく
活動を発信していく 吉賀町広める

このプロジェクトで
出来たことは、

多くの方々が支えてくださった
おかげです。
ありがとうございました。



260207 サクラマフェス

地域をつなぐ防災

～防災から始まる
持続可能な地域づくり～

吉賀高校 教員 佐々木翼 中曽拓人 岩下静華



目次

- 01 震災について
- 02 吉賀高校の取り組み
- 03 先行事例
 - ・宮城県多賀城高校
 - ・宮城県牡鹿郡女川町
- 04 防災教育から考える町づくり
- 05 今後の地域と学校

2026年1月6日10:18

島根県東部でM6.2、震度5強の地震が発生

突然の揺れは、私たちの日常が一瞬で変わる可能性を改めて感じた



島根日日新聞：地震で隆起した地面（島根県大田市）

三瓶山神代神社社中：半壊した建物（島根県大田市）

もし同じような地震が、
今、この地域で起きたとしたら——
みなさんは、どのような行動を取りますか？



能登半島地震 発生時の揺れ

ANN NEWS:
ドライブレコーダー
がとらえた激しい揺れ
石川・珠洲市 1
月1日【能登半島地震
被害状況マップ#
25】

※映像内で当時の地震速報音が流れます

ANN NEWS:
建物の中に人が！でも
立てないほどの揺れ
…気づくと地面は
割れ、木は倒れた
石川・輪島市（岩倉
寺）1月1日【能登
半島地震 被害状況
マップ#27】

地震発生時起こりうること

- 建物の倒壊・一部損壊・老朽化した建築物や一部の木造住宅の倒壊
- 交通インフラの麻痺・道路の亀裂・陥没、土砂崩れによる通行止め
- 通信網の混雑：携帯電話やインターネットが極めてつながりにくくなる状況
- ライフライン停止：停電・断水・ガス停止による生活機能の完全な停止
- 二次災害の危険：火災の発生、余震によるさらなる崩壊リスクの継続
- 落下物による被害：ブロック塀の倒壊、看板や窓ガラスの落下



地震発生時起こりうること

過去の被害地震から調査：

恐怖で動けない / 避難途中に失神
腰が抜けて動けない教職員の発生
校庭避難途中に転倒して骨折
余震で悲鳴 / 余震で嘔吐 / 余震で校外に逃亡
過呼吸 / 過呼吸が伝播
机に頭を激突 / 階段で転倒 / 階段での転倒者が他の人を巻き込み
保護者と避難者が校庭に混在 / 校庭で転倒

防災教育（防災学習）とは

災害時の危険を正しく認識し、日頃の備えと状況判断・行動ができる力を育てる教育であり、
自分・他者・地域の安全に役立つ能力を
身につけることを目的とする学習である。

※文部科学省「防災教育支援のあり方について」より

吉賀高校の 防災学習・避難訓練

- ・防災教育目的の明確化
- ・防災意識の強化
- ・実践的な避難訓練
- ・危機管理マニュアルの見直し



◆◆ 学びを形にした吉賀高校の実践 ◆◆

実践的な避難訓練

- 過去に高確率で起きていること：
- ・余震（科学的には100%起きる）
 - ・停電・校内放送の停止
 - ・けが人・体調不良者の発生

学校では起きない
ことになっている

起きることしている

- 過去に一度も起きていないこと：
- ・耐震化された学校の倒壊

避難訓練は「校庭に行くことが目的」になっていないか

◆◆ 学びを形にした吉賀高校の実践 ◆◆

余震あり

停電・校内放送の停止



◆◆ 学びを形にした吉賀高校の実践 ◆◆

けが人・体調不良者の発生

生徒からの状況連絡



◆◆ 学びを形にした吉賀高校の実践 ◆◆

本部への情報伝達

救急優先順位・救急対応



◆◆ 話し合った内容を全体で共有 ◆◆



◆◆ 話し合った内容を全体で共有 ◆◆

1回目よりも2回目の方が
みんなけが人の対応が素
早くできていたね。

生徒もトランシーバー
や担架を使える練習し
たほうがいいよね。



状況把握のために記入するときに
症状を聞く相手を傷病者にしてし
まったことが改善点…

◆◆ 挙げた懸念事項への対処方法 ◆◆

「これだけたくさんの懸念事項を発災当日に一体
どう対処したらいいのか」と考えるのではなく、

「発災までにどうやったらリスク」を下げられる
のかという視点で考える



◆◆ 避難訓練を行った生徒のコメント ◆◆

「初めて封筒避難訓練をやってみて周りの人達に声をかけて上げることしかできなかったから、自分でもできる地震や報告をしたりすることも実践してみたいです。中学校とは違う避難訓練でどうしたらいいかわからないこともあったけど、避難訓練の重要さがよくわかりました。」

「誰かが早く行動することが！人の命を助けるきっかけになると思っただけ簡単に情報を伝えることができませんでした。次回は自分がどんな役割になるかわかりませんが、実際に発生したときの緊張感を持って取り組みたいです。」

「この避難訓練を通して、将来県外に出たときにこの経験を周りと共有していくことが大切だと思いました。」

◆◆ 防災教育とは ◆◆

大人も子供も、みんなで探究する活動。

「防災の教育」ではなく「防災を通じた教育」

◆◆ 避難訓練を通して ◆◆

正解のない状況で主体的に判断し、
地域と社会につながる力を育てる。

先行事例

宮城県多賀城高校の取り組み

全国初の理系学科「災害科学科」

防災・減災教育に特化

東日本大震災、学校として直接経験した高校



津波後、通学路の歩道橋の上に取り残される生徒

◆◆ 宮城県立多賀城高校の取り組み ◆◆

○津波伝承まち歩き

○津波波高標識設置活動



◆◆ 宮城県立多賀城高校の取り組み ◆◆

○JR東日本との合同避難訓練



電車内出入口扉上部に生徒が作成した避難指示

探究の成果が、地域の暮らしの中でもー

防災を中心にしたまちづくり

宮城県牡鹿郡女川町の事例

場 所：宮城県東部・牡鹿半島の付け根
太平洋に面した港町
人 口：約5,800人（2024年推計）
特 徴：リアス式海岸・天然の良港
主な産業：漁業・水産加工業
カキ、ホタテ、
銀鮭、サンマなどが有名



◆◆ 宮城県牡鹿郡女川町の事例 ◆◆

東日本大震災：
2011年の津波で住宅の7割が津波で流出するという
大きな被害を受け、多くの尊い命を失いました。



女川町HP:復興のあゆみより

民と民間主導のまちづくり

女川町に住み続ける気持ちのある住民で
復興組織を立ち上げる（FRK:女川町復興連絡協議会）

テーマ：100年先の子どもたちが誇れるまちづくり



復興組織のリーダー役を担った
女川町商工会の高橋正典会長

町民と民間主導のまちづくり

復興に向けて
10年：ライフラインの整備
次の10年：住みたい町にできているのかの検証

50代が始めても20年後には
責任が取れない...

30,40代の世代が
まちづくりを託される

還暦以上は口を出さず



復興組織のリーダー役を担った
女川町商工会の高橋正典会長

民間による復興プログラム

目的：どんな町を目指すのかビジョンを作ること

→町が残るには、産業（仕事）が必要。経済を回す
機能を駅周辺にまとめたコンパクトシティ化計画

まちづくりデザイン会議
...町民が直接まちづくりに参加

町民と描いた町の絵
「口説ける水辺のあるまち」



海とどう生きるか

女川町は防潮堤を作らないことを決断

→防災の観点から、海と町の間にある防潮堤が必要
しかし、海に対して子どもたちをどのように
守りたいのか、本当に防波堤で守られるのか？



イサダの水揚げ



減災という選択

防潮堤の代わりに、町を3段階にエリア分けして整備

A, A': 住宅 B: 商業施設 C: 公園・漁業産業施設



→防災と海との暮らしの両立を図る

町民の想いを受けたまちづくり



女川駅ゆぽぽ

町民の想いを受けたまちづくり



そのまま避難経路にも
なっている中心街のレンガ道

防潮堤がなく海が見える



シーバルピア

町民の想いを受けたまちづくり

レンガみちに隣接する
テナント型の商業施設

道の駅になっている
観光物産施設



シーバルピア



地元市場ハマテラス



コンパクトシティ



駅前周辺には、役場、病院、学校



コンパクトシティ



5小3中が集まった女川町立女川小学校・中学校



女川中学生の取り組み



女川いのちの石碑の建立（21基）

津波の到達地点より高い場所に設置され、「大きな地震が来たら、この石碑より上へ逃げてください」など、命を守るための具体的な避難行動が刻まれている。



毎日新聞：10年後に集まる卒業生



女川町四季の祭り



おながわ春の祭り『津波伝承女川復幸男』

「津波が来たら高台へ逃げる」という津波避難の基本を、なんかの形で後世へ伝え続けたい——
一過性のイベントではなく年中行事として続けていく。



津波到達時刻の午後3時32分
「逃げる」の掛け声でスタート



NPO法人アスヘノキボウ



Iターンで女川町のFRK戦略室に関わり始めた小松洋介氏を初代表として設立。トレーラーハウスを活用した宿泊施設を整備し、被災旅館の再建支援を行う。



小松洋介氏



トレーラーハウス



NPO法人アスヘノキボウ



2015年女川フューチャーセンターCamass設立

『女川町の地域課題解決を通じて、日本と世界の地域課題解決に貢献する』
 ・「子どもたちが残りたいと思える町とは何か」
 ・「シャッター通りをつくりたくない」
 →震災以前からの課題に向き合う



Camass



NPO法人アスヘノキボウ



女川町・民間・NPOの三者連携による公民連携や女川町外とのハブとして機能している。定住人口にこだわらず、町の経済や文化に関わる「活動人口」を増やすことを重視している。

- ・機会：若手企業家育成、視察、研修、創業プログラム
- ・環境：女川フューチャーセンター、大学寮、お試し移住用シェアハウス
- ・仕組み：お試し移住プログラム、地域おこし協力隊インターン制度 等



若者が女川町に惹きつけられる理由



1. 若者世代が本気で意思決定を任せる覚悟があること
2. 自らも挑戦し、他者の挑戦も応援する環境があること
3. 0から何も新しいもの生み出せる期待感があること
→「ここならできるかも」と思えるまちづくり

あたらしいスタートが世界一生まれる町へ。

START! ONAGAWA

女川町のまちづくりまとめ

- ① 減災・防災を最優先にしたまちの再構築
 - ・市街地の大規模なかさ上げと、住宅の高台移転
 - ・津波被害を前提にした「減災」の考え方を基本理念に
 - ・防潮堤だけに頼らず、命を守る空間構造を重視
- ② コンパクトシティ化
 - ・JR女川駅周辺に、行政・医療・福祉・商業・交通などの機能を集約
 - ・人口減少を見据え、歩いて暮らせる規模のまちへ再編
 - ・にぎわいと生活機能を中心部に集中

女川町のまちづくりまとめ

- ③ 官民連携・若手主導のまちづくり
 - ・震災直後から、民間・若手中心の復興組織が主導
 - ・NPOやまちづくり会社などがハブとなり、行政・民間・外部人材をつなぐ仕組み
 - ・「公民連携」によるスピード感ある意思決定
- ④ 住民参加・対話型のまちづくり
 - ・住民・専門家・行政が参加する復興まちづくりデザイン会議
 - ・町の将来像や景観について、住民とイメージを共有しながら設計

女川町のまちづくりまとめ

- ⑤ 「海が見えるまち」「女川らしさ」の重視
 - ・防災と両立させつつ、海への眺望や景観を大切に
 - ・港町としてのアイデンティティを活かす
 - ・観光・交流拠点としての駅前・海岸広場整備
- ⑥ 復興＋地域課題の解決（持続可能性）
 - ・震災前からの課題（人口減少・高齢化・商店街衰退）も同時に解決
 - ・起業支援・交流人口（活動人口）の創出
 - ・「震災前に戻す」のではなく、未来型の町に作り変える発想

防災教育から考えるまちづくり ◆◆

多賀城高校×女川町から見えたこと

- ・『防災』は学校内、町内でも考えられる共通言語
 - ・町の生き残りに住み続けたい（関わりたい）町が必要
 - ・今までのままではなく先の世代まで伝承したい町とは
- 防災をテーマに町全体のつながり方を考える



地域として学校として ◆◆

育った子どもたちが将来戻ってきたい（関わりたい）と思えるまちづくりのためには次世代に町を託す覚悟と仕組みが必要となる。

地域・学校でビジョンを持ち、若者が主体となり挑戦できる環境を生み出すことが今後のまちづくりで重要となる。

地域・学校をつなげる中で、「防災」は重要な鍵となり得るのではないかな。

参考 PAGE



慶應義塾大学 大木聖子「教育課程としての防災訓練資料」

被災地教員手記

宮城県多賀城高校

<https://tagajo-hs.miyagi.ac.jp/>

たがじょう見聞録

<https://tagajo.irdes.tohoku.ac.jp/index>

女川町まちづくりアーカイブ

https://www.town.onagawa.miyagi.jp/archive/town/kakusyu_siryuu.html

女川で暮らす

<https://www.town.onagawa.miyagi.jp/julchild.html>

弟とおばあちゃんに胸を張れる生き方を「あの日」の教訓を胸に『津波伝承レース』を支えるアーティスト 宮城・女川町

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/tbc/1815363?display=1>

特定非営利活動法人アスヘノキボウ

<https://asuenoki-bou.jp/>

260207 サクラマスフェス

ご清聴 ありがとうございました

～防災から始まる
持続可能な地域づくり～

吉賀高校



1 年間のアントレを振り返って

■1 年生感想

- ・最初のアントレ案は実現することが難しいものだったのですが、先生方や大学生の方々のアドバイスを聞いて元のアントレ案の要素を残しつつ現実的なものにすることができました。このアントレ活動を通して多くの方々と関わることができたので、コミュニケーション力などを成長させることができたと思います。また、アントレを進める上で難しいことに直面した際に同じ班の人に頼ってしまうことが多かったので、自分から行動したり班全体でより協力したりしてアントレを進められるようになりたいと思いました。



- ・たくさんフィールドワークに行くことができて良かったです。計画性が大事であることや、伝えることの難しさを学びました。日程の調整がうまくできていなくて、中学校側に迷惑をかけてしまうことがあったので、本当に打ち合わせをしっかりとしないといけないなと思いました。まだ私たちは生徒さんそれぞれにあった対応ができていないし、距離もまだ縮まっていないと思うので、私は来年も継続して活動が続けることで、私達の目標である「生徒と先生の間」の存在になりたいです。

- ・高校に入学して、初めて行ったアントレはとても学ぶことが多かった1年に思えました。役場の方にお話を聞きに行ったり、スライド、プレゼンの仕方を教わったり、大学生と交流したり、フィールドワークに行ったりとそれぞれで新しい知識を得ることができたと思います。入学当初は発表することや、大人の人とコミュニケーションを取ることが苦手でしたが、徐々にできるようになり、自分でも嬉しかったです。私はアントレで地域の方とメールをすることが多かったですが、これこそ自分がコミュニケーションを以前よりもできるようになった理由だと思います。2年時は何を行うかまだ明確にできていないですが、1年時の経験を活かしてアントレの活動を行いたいです。



- ・最初に活動したときは何をすればいいのかわからず、目的も定まっていなくて本当に今自分がしている活動が地域のためになっているのか不安でした。しかし、大学生の方や先生方などからアドバイスを頂き、目的やしたいこと、活動の目標を具体的に決め、活動を



楽しむことができました。回数を重ねるごとに中学生とも話せるようになり、距離も近くなり、質問も頻繁にもらえるようになりました。中学生とのつながりだけでなく、地域へのつながりも大事にして2年生のアントレの活動もしていきたいと思います。

■ 2年生感想

- ・この1年は成長した部分もありますが、課題が多く見つかった1年でした。SNSを通して活動していくにあたって、どれだけ多くの人に見てもらえるかが大事なので、投稿頻度を決めた範囲内でしっかりやっていければと思います。また、キャラクターをつくったのですが、今は作っただけになっているので、名前をつけたり、グッズをつくってみたりなどして、キャラクターで吉高サッカー部のことについて宣伝していけたらと思います。



- ・1年間のアントレを通して現在の進捗状況や今後の予定をその都度まとめることができるようになりました。他視点から物事を捉え、積極的に取り組むことができました。発表する際も緊張するけれど、しっかり自分の言葉で発表することができて少し成長を実感しました。一度提出した役場のHPの改善案についての回答が先方から返ってきたら、今後もしっかりHPの完成をめざして取り組んでいきたいと思っています。アントレの活動は残り半年ぐらいしかありませんが、少しでも成長できるように頑張っていきたいです。

- ・自分たちから積極的に行きたい企業の案を出して、フィールドワークに行って地域の課題を見つけ、イベントを開くことができました。また、将来なりたい職業に近いことをアントレすることができました。できなかったことは、高齢者の方への配慮が足りなかったことです。例えば、イベント参加の申し込み方法がQRコードのみだったことやイベントの送迎がなかったことなどがありますが、今年度の反省を踏まえて、来年度のアントレに活かしたいと思っています。



- ・1人での活動だったので、効率が悪く、動き始めるのが遅くなってしまったけれど、イベントをしっかり実行できました。今後も地域の方が参加したいと思うようなイベントを考えていきたいです。普段できないことから新しいことを学んだり、地域の方と関わることで新たなことを教えていただき様々な経験をすることができたりしたので、これからもアントレの時間に限らず積極的に人とのつながりを作っていきたいです。そして新しいことにたくさん挑戦していきたいです。



吉賀高校アントレ 講評

関西国際大学 経営学部 教授 樋田 大二郎

「笑顔のアントレで町を笑顔で溢れさせる」

吉賀高校のアントレプレナーシップ（起業精神。以下、アントレ）の取り組みの根幹にあるものは、生徒のWill（好きなこと・やりたいこと）を出発点とし、それを地域社会のNeed（課題や需要）と結びつけ（Can）て、「地域に笑顔を溢れさせること」ではないか。今年の発表会では、まさにその真髄を見ることができた。以下、いくつかの発表を例に、私の心に焼き付いたことを振り返りたい。

『医療福祉×アート』は、自身の得意なアートを活かして医療空間に彩りを与え、不安を抱える患者や従事者を笑顔にする「ホスピタルアート」の普及を目指した。『吉賀町とスキー場の架け橋に』は、自身のスキー愛と町を掛け合わせ、来訪者に地域の魅力を伝えることを目的とした。『Yoshika One Project』は、動物好きというWillから町に犬の交流施設がないというNeedに着目し、飼い主とペットが共に笑顔になれる場を創出した。『石見神楽の魅力を吉賀の子どもたちに伝えたい』は、自身が舞手である生徒が、石見神楽の魅力を次世代へ繋ぐことで後継者不足の解消に挑んだ。そして『みんなで楽しむ！廃校イベント！』は、廃校を活用して多世代が交流できる場作りを目指した。いずれのプロジェクトも、地域を少しでも明るくしたいという温かい志が原動力となっている。

探究の手法に目を向けると、「次につながる楽しい失敗」の積み重ねが大きな特徴だ。生徒の歩みは、決して一直線ではない。例えば『吉賀町とスキー場の架け橋に』では、当初企画したバスツアーが資金や時間の壁に直面し、頓挫した。しかし、生徒は諦めなかった。特産品の猪肉や鮎を使ったおにぎり販売と、温泉割引を組み合わせるアイデアへと転換し、見事に実行に移した。この転換こそが挫折を別の形で成功へと昇華させた。有意義な失敗の好例である。『石見神楽の魅力を吉賀の子どもたちに伝えたい』においても、中学生向けのお話会が「難しすぎた」という手痛い失敗を経験したが、その反省を即座に「興味を惹きつけるアプローチ」へと改善に繋げた。計画を行動に移し失敗を糧に軌道修正する柔軟なPDCAサイクルが実践されていた。

生徒たちは、困難な状況下でも楽しみ、時には「笑顔で歯を食いしばる」ことをしていた。思い通りにいかない現実と直面しても、悲観することなくポジティブに壁を乗り越える逞しさを身につけたといえる。『Yoshika One Project』では「先を見通して計画し、早く実行に移す力」を獲得したように、思考を形にする力が養われた。また、『みんなで楽しむ！廃校イベント！』の生徒が「一人でできるか不安だったが、失敗しても人の協力を得て何とかできたと学んだ」と語ったように、他者を巻き込む協働の力も獲得している。困難に対して周囲の助けを仰ぎながら笑顔で粘り強く取り組むことで、彼らは確かな自己肯定感を掴み取った。

吉賀高校のアントレの真骨頂は、地域社会全体を学びの場とし、「失敗を許容し、楽しむ文化」が根付いている点にある。WillとNeedをすり合わせるプロセスは、正解のない問いへの挑戦だ。資金不足や集客難といったリアリティのある壁にぶつかった際、生徒たちは折れることなく、それを次なる経験へと変換していく。例えば『廃校イベント』では、当初の漠然とした企画を、地域の大人の助言や食堂での活動を経て「小中学生向けの工作イベント」へと研ぎ澄ませた。失敗を「課題の捉え直し（リフレーミング）」の機会とする姿勢が、随所に見られた。

アントレの意義には、地域社会への波及効果の大きさが含まれる。苦境でも笑顔で地域のために汗を流す高校生の姿は、大人たちの協力を引き出すだけでなく、大人たちの当事者性や主体性を高める。失敗を恐れず挑戦する生徒の存在そのものが地域に活力を与え、結果として町全体に

笑顔を溢れさせる。

最後になりましたが、素晴らしい探究を見せていただいた生徒、先生、そして支えてくださった地域の皆様に深く感謝いたします。

桜美林大学 グローバル・コミュニケーション学群 准教授 山崎 慎一

2026 年 2 月 6 日、吉賀高校において「令和 8 年度アントレプレナーシップ教育成果発表会（以下、アントレ発表会）」が開催されました。今年度の発表会は、吉賀高校のアントレプレナーシップ教育における「確かな加速」を強く印象づけるものでした。本番に先立ち行われた校内発表の段階から、例年以上に発表の質が高く、どのチームを代表として送り出すか、選考が難航するほどの充実ぶりを見せていました。また、惜しくも本選への出場が叶わなかった生徒たちにおいても、探究学習のプロセスそのものは十分に理解されており、課題の設定から解決策の模索に至るまで、将来のキャリアに活きる基礎力が着実に身につけている様子が見受けられました。

選抜された発表はいずれも極めて優れた水準に達しており、「自らの関心の発見」からスタートし、「外部との連携・キーパーソンとの出会い」、そして具体的な「実践と分析」を経て「次なる企画」へと至るプロジェクトの進化が明確に示されていました。一つの場所やテーマにじっくりと腰を据え、一度きりではなく何度も足を運び、インタビューや実体験など多様な角度から対象に光を当てる——そうして一つのことを掘り下げる過程で、地域や対象との間に「代えがたい深い絆」と、表面的な知識に留まらない「深い探究」が生まれていました。

その一方で、今回発表に至らなかった取り組みの中にも、多くの「探究の種」が確かに育っていたことを強調しておきたいと思います。自分の専門外の領域にも好奇心のアンテナを広げ、「自分には関係ない」と思わずに全く異なる分野へ飛び込んでみる、あるいはあえて不慣れな手法で世界を覗いてみる。そうした一見バラバラに見える経験は、今はまだ点に過ぎなくとも、やがて点と点が結びつき、予期せぬ新しいつながりへと発展していくはずです。アントレ発表会での結果が全てではありません。興味や関心を持ち続け、多くの人と交流し続けることこそが、生徒たちの生涯にわたる成長につながると確信しています。

また、吉賀高校のアントレプレナーシップ教育において、「高大交流」も重要な役割を果たしています。年間を通じれば限られた時間ではありますが、大学生世代が少ない吉賀町において、縦関係（教師・親）や横関係（同級生）とは異なる「斜めの関係」がもたらす教育効果は計り知れません。評価者である先生に対して、生徒はどうしても「正解」を求めて身構えてしまいがちです。しかし、「半分先生・半分先輩」という立ち位置の大学生には、等身大の悩みを打ち明けやすく、助言も素直に受け入れやすい側面があります。特に今回参加した桜美林大学の学生たちは、決して完成された指導者としてではなく、自身の未熟さや、過去の葛藤・失敗経験を飾ることなくリアリティを持って語る姿勢が見られました。いわゆる「優等生的な成功談」ではなく、試行錯誤のプロセスそのものを共有する関わりが、生徒の心理的な安全性を高め、本音を引き出す鍵になったと分析しています。この「人間味ある関わり」こそが生徒の主体性を刺激し今回の成果を支える一因となったのではないのでしょうか。

新体制のもとで行われた今回の発表会は、吉賀高校が目指すアントレプレナーシップ教育が理想的な形で結実しつつあることを証明しました。トップ層の伸びと全体の底上げが両立できたのは、ひとえに先生方の尽力によるものです。先生方が「今回は生徒に任せる部分が多かった」と口を揃えつつも、決して放任せず、生徒の状況を的確に把握されていたことが大変印象的でした。過干渉にならず、かつ見守り続けるこの「適切な距離感」こそが、生徒の主体性を最大限に引き出し、発表の質を高めた最大の要因です。次年度、さらに進化を遂げるであろう吉賀高校の取り組みに大いに期待すると

もに、もし機会があれば、我々もその挑戦の一部として、吉賀町と高校の未来に関わり続けられることを願っています。

島根大学 大学教育センター 講師 吉崎 聡一

はじめに

先日は、吉賀高校の探究活動発表会に参加させていただき、誠にありがとうございました。今年初めて発表会を拝見いたしましたが、生徒のみなさんの熱意と独自の視点に触れ、大変刺激を受ける有意義な時間となりました。本稿では、吉賀高校の探究活動の素晴らしさと、今後の活動に向けた期待についてまとめさせていただきます。

1. 現場に足を運ぶことの価値（吉賀高校の探究活動の強み）

今回の発表を通じて最も感銘を受けたのは、生徒のみなさんが「現場に足を運び、自分の目で見て感じている」という点です。現代はインターネットを検索すれば容易に情報が手に入る時代ですが、地域特有の課題や、そこにある本質的な解決策は、現場にしか落ちていません。

スキーや神楽など、自分たちの身近なテーマに対して実際に現地へ赴き、当事者と関わりながら探究を進める姿勢は、いかなるプロジェクトにおいても基盤となる非常に価値のあるアプローチです。この「現場主義」を大切にし、リアルな情報を掴み取ろうとする姿勢こそが、吉賀高校の探究活動の大きな強みであると感じました。

2. 探究活動の意義：「仕事」から「押しゴト」へ

講評の際、生徒のみなさんに「おしごと」という漢字について問いかけました。多くの場合、「仕事（誰かに仕える事）」と書きます。これまでは、誰かから頼まれた役割を果たすことが仕事の主流でした。しかし、生成AIやロボティクスが発達した次の社会では、この漢字が「押しゴト」へと変化していくと私は考えています。

「押しゴト」とは、自分の好きなこと、熱意を傾けられること（＝推し）を見つけ、それを深めていく活動です。「これが好きだ」「もっと知りたい」という純粋な思いを原動力に行動を起こすことは、これからの社会を発展させていくための最も重要な力になります。今回の発表にあったような、みなさんの独自の興味・関心は、まさに一人ひとりの「推し」そのものです。探究活動とは、この自分だけの「推し」を見つけ、育むための大切な時間であると言えます。

3. 共鳴し合う「押しゴト」が地域や社会を創る

さらに重要なのは、自分が何かを強く「推す」ことで、その情熱に共感し、「推しているあなた」を「推してくれる人（応援してくれる人）」が現れるという点です。探究活動を通じて自分の好きなことを発信し続けると、そこには必ず協力者や共感者が集まり、活動が大きく回り始めます。

同時に、他の生徒の活動や、地域の方々の取り組みを、今度はみなさん自身が積極的に「推す（応援する）」側にもなっていただきたいのです。誰かの「押しゴト」を支え、お互いの情熱を尊重し合う関係性が連鎖していくことで、地域社会はより豊かで活力あるものへと発展していくはずです。私は、そんな社会をみなさんと創って行きたいと思っています。

おわりに

吉賀高校のみなさんが取り組んでいる探究活動は、単なる学校の授業の枠を超え、これからの時代を生き抜くための「自分の情熱の源泉を見つける旅」でもあります。これからもぜひ、現場に足を運ぶフットワークの軽さを大切にしながら、自分自身の「押しゴト」を深め、そして他者の「押しゴト」を支える存在になっていってください。みなさんの探究活動が今後さらに発展していくことを、心より楽しみにしております。素晴らしい発表をありがとうございました。